ほとんど不可知の音声としての性格が強くなる。儀礼的行為によって社会関係の根幹が定義されるとすれば，儀礼とは，より分化した社会において様々な制度によって担われている社会の構成という契機を，十全には言語化されない様々な形式的行為によって構成するシステムであり，社会制度の形成そのものに纏わる諸問題を集約的に表現する，興味深い場所であると言える。

討論　原　洋之介　　司会　友杉　孝

12月10日　（東アジア部門Ⅰ）

報　告　部門の研究概況　　宮嶌博史

研究発表　先秦時代の称元法と『史記』　　平勢隆郎

いずれの地域・時代を問わず，歴史学に資料批判はつきものだが，中国史研究の中で，春秋戦国時代は，とりわけこの問題を大事にする。史料間の矛盾が古くから論議されているからである。従来この時代の史料批判は『史記』を基準として進められてきた。しかるに，筆者は『史記』における繫年の誤りが史料間の矛盾の根元にあると想定するに至った。すなわち，いわゆる踰年称元法は，戦国中期に発生したのを，司馬遷がそれ以前から存在するものとして配列したため，繫年のくるいが生じていると考える。それまで存在したのは立年称元法であった。これを前提とすれば，これまで指摘されてきた矛盾は解消し，従来敬遠されてきた史料にも，利用の道が開ける。すべて繫年が問題であり，内容は原則として矛盾しない。『史記』繫年の影響で後に誤った部分は，史料の一部にとどまるため，容易に指摘することができる。司馬遷が称元法の転換に気付かなかった最大の理由は『春秋』が踰年称元により配列されているからである。彼は，これを儒教の祖孔子の作と信じて疑わなかった。『春秋』は早くとも踰年称元が議論されるにいたって成立したはずで，それは戦国中期であったと考えている。

討論　飯尾　秀幸　　司会　松丸　道雄

1992年度退官記念最終研究発表会

3月11日

田仲一成教授　研究略歴紹介　　丸尾常喜

研究報告　中国の宗族と演劇　　田仲一成

中国の演劇が郷村の祭祀儀礼から発生したという視点にたって，宗族による郷村支配がこの発生過程にいかなる影響をおよぼしたかについて，事例に基づいて検討した。

(1) 宗族の支配が強い場合

華中・華南の単姓村落のケースがこれにあたる。ここでは，支配宗族は巫術儀礼を賤民に担当させ，その伝承を強制するため，巫術儀礼は巫術の枠から超出しえず，演劇へ展開しえない（江西南豊，万載等の例）。

(2) 宗族の支配が弱い場合

華北や西南辺境など屯田雑姓村落のケースがこれにあたる。ここでは，巫術儀礼を担当する賤民は存在せず，村人が平等に担当する。巫術儀礼は娯楽化し，三国演義などの物語劇に転化を遂げている（貴州安順の例）。

以上，総合すると，中国の郷村祭祀が演劇に展開してゆく歴史的プロセスにおいて，宗族の郷村支配が抑止的に作用したことが推定される。儀礼が演劇に転化するためには，支配層による祭祀権の独占が打破されて多数の郷民に解放されることが必要である。ギリシャのアテーナイでは古代に，日本では中世にこの変化が起こった。中国では日本よりむしろ遅れて南宋－元代に漸やくこの変化が起こってくる。中国独特の宗族による郷村祭祀権利の独占がこの変化のプロセスの進行を妨げたためであると思われる。

3月11日

友杉孝教授　研究略歴紹介　　松井　健

研究報告　タイ社会の研究と私――他者を介して自己を知る過程あるいは自己の相対化　　友杉　孝

30年余りも前のことになるが，タイ社会論を構想するために農村調査を始めた頃，農村社会の後進性さらには封建あるいは半封建性にかんする観念に私はとりつかれていた。ところが，農村に馴染み，人々と親しくなると，これら私の観念はひどい偏見に過ぎず，現実に対する妥当性に全く欠けることが経験的

に明らかになった。すなわち，経験から現実理解の枠組みを考える学問が地域研究であると知った。同時に，自分の考えをひとまずは側に置いて社会を直接みることの難しさをも知った。

社会を直接にみることは，研究者の感性あるいは想像力によって社会の全体像をイメージすることと深く関わる。本来，社会が政治，経済，文化などなどとそれ自身が分化してあるのではない。社会は一体としてしかありえない。すなわち，政治，経済，文化などなどは研究者が対象社会を分析するために用いるカテゴリーでしかない。ここに問題が起こる。これら分析概念が創られた社会あるいは時代から遠く離れた社会を研究する場合，かえってそれらが社会をみる眼を覆う偏見として働くことが起こりうるからである。地域研究がいくつもの学問分野を横断して成り立つゆえんである。このことは地域研究者が社会を複眼的にみる視点を経験的に内面化せねばならぬことでもあろう。たとえば，タイ農村での経済活動をみるには経済を社会関係一般のなかに置いてみる想像力の働きが必要である。むしろ地域研究はこのような感性あるいは想像力を鍛える場であるとも言えよう。さらに，研究者と対象社会との関わりは，おのずから研究者自身の感性を対象社会とのかかわりにおいて客観化することになろう。タイ社会を参照枠として日本社会が再考されることになる。

1993年度定例研究会

7月15日　（東アジア部門Ⅰ）

報　告	部門の研究概況	松丸道雄
研究発表	拡大する地域主義——香港・華僑・華南経済圏の歴史的根拠	濱下武志

ナショナリズムは，現在，二つの側面から挑戦を受けている。その一つは，地域論・地域主義からのナショナリズムの歴史的実態に対する問いかけがあり，他の一つは，グローバリズムやインターナショナリズムからのナショナリズムの現実的機能に関する批判がある。

地域主義・ナショナリズム・グローバリズム三者間の関係の特徴は，従来の

ように国家を中心として，その下位概念として地域や地方があり，国家相互間に国際関係があり，それが世界に結びつくという垂直的な関係をなしていないところにある。すなわち，地域主義は，従来の「地方」領域を含みながら，むしろ大地域の主張として，従来の国際関係の領域にも重なり合いながら国家間関係に替る結びつきの理念や制度を主張し始めている。

地域のダイナミズムをどのように据えるか。論じようとする地域は，さし当たり，重層的であり多面的である。しかし，同時に，一つの内面的秩序・統一的な相互関連を持つ歴史体として構想される。地域は空間的には可変的であり，伸縮する。そして，時には求心力の方向において，また時には遠心力の方向において，地域のアイデンティティを主張する。

現在論ぜられているいわゆる「華南経済圏」につていも，香港ならびに華僑経済の検討を踏まえて，上記の視点からその歴史的根拠が問われる必要があろう。

討論　宮嶌　博史　　司会　平勢　隆郎

9月30日　（東アジア部門II）

報　告	部門の研究概況	丘　山　　新
研究発表	『水滸伝』の改変・批評に見られる幾つかの断層——国家権力はどこまで「正しさ」を独占できるのか？	笠　井　直　美

明後期に成立した白話小説『水滸伝』は，周知のように殺人・強盗といったいわば違法行為にあふれた物語である。アウトローを主人公としてこうした違法行為を語ること，こうした物語に評価を下すことは，物語る側，評価する側の，法や公権力，あるいは「正しさ」に対するスタンスをも，同時に示してしまう。とりわけテクスト間にずれ・断層がある場合には，こうした問題に対する無意識的な前提の相違が露出される。本研究発表では万暦から明末に出現した諸版本のうち，代表的な三種（文簡本の余象斗本，文繁分巻系の容与堂本，文繁不分巻系の楊定見本）とその批評に見られるこうしたずれ・断層について検討した。

余象斗本・容与堂本およびその評においては，私的交情を王法に優先させて強盗に内通することを当然の如く称え，謀叛人を神の生まれ変わり，一個の英雄として描き，その部下が謀叛人に忠節を尽くすことを忠として称え，「忠義」の語を義兄弟への献身などにも用いるなど，総じて言えば，公権力に拮抗し王法を拒否し得る「正しさ」を容認する認識が見られる。これに対し，三種のうち最も成立が遅く，読み物向きの版本とされる楊定見本では，こうした「正しさ」は認められず，公権力の「正しさ」と矛盾しない（あるいはそれに奉仕する）「正しさ」をもつアウトローが悪役人を討つ図式，皇帝に独占的に捧げられる「忠義」など，かなり図式的に「整理」されている。こうした「整理」が，時代・地域・階層等と，どのように位置づけ，関連づけられるかは今後の課題としたい。

討論　岸本　美緒　　司会　丘山　新

10月14日　（南アジア部門）

報　告　部門の研究概況　上村勝彦

研究発表　20世紀前半の南インド農村小工業の展開と消費構造　柳澤　悠

20世紀前半の南インドにおいて，いくつかの分野で農村小工業の発展が見られた。通説は，この変化を29年恐慌以降の農村不況によって利益率が低下した金貸し資本家が工業に投資した結果であると理解してきたが，こうした小工業がいかに市場に見いだしえたかという視点は欠如していた。

この報告では，精米所，落花生工場，ビーリー製造，綿操工場，手織業などの消費市場の変化を検討した。これらの小工業は，当初は輸出向けの加工部門として発展したが，次第に南インド内部の国内市場を基礎とするものに転換した。その場合に農村などの下層民によるこれらの商品の消費が重要な基礎となった。例えば，下層民による，パーボイルドライス・食用油・ビーリーなどの消費の増大が見られた。手織品に対する新たな需要の展開によって手織業の発展が見られ，その結果，手織業を主たる市場とする紡績工場が南インドで発展し，南インド産の綿花の最大の消費市場となった。報告では，これらの商品へ

の下層民消費の拡大は，彼らの社会的経済的地位の変化にともなって生じていることを指摘した。

報告後，小工業資本の出自，米流通をめぐる商人と精米所との関係，消費転換の文化的背景など，多くの論点をめぐって討論が行われた。

討論　加納　啓良　　司会　永ノ尾　信悟

11月11日　（西アジア部門）

報　告　部門の研究概況　羽田　正

研究発表　イランにおける「アレクサンドロス物語」の伝播と変容　山中由里子

アケメネス王朝を滅ぼし，ペルシア帝国を征服したアレクサンドロス大王は，ササン朝に起源を持つパフラヴィー語のゾロアスター教伝承の中では邪悪な破壊者，アフラ・マズダの最悪の仇敵の１人として描かれている。しかし，アレクサンドリア起源の英雄物語「偽カリステネスのアレクサンドロス物語」がイランに伝播し，またイランにイスラム教が浸透するとともに，英雄としてのアレクサンドロス像が主流になってくる。フィルドゥスィーの『王書』(980～1010年頃）の中のアレクサンドロスはイラン人の血をひく正統な王とされており，12世紀末の詩人ニザーミーの『アレクサンドロスの書』においてはイスラム的英雄，賢者として描かれている。このようなイランにおけるアレクサンドロス像の変化はイラン人の民族意識や宗教意識の歴史的変遷を反映しているのではないかという発表者の考えに対して，イラン人のアレクサンドロス像というものが単線的であって，それが時代とともに変化したのではなく，イランの中でも様々な地域や社会的なレベルによって異なるいくつかのイメージが常に同時に存在してきたのではないかというコメントが出た。

最後に，イランの「アレクサンドロス物語」に現れる世界観，コスモロジーについても今後の研究課題として触れた。

討論　小倉　泰　　司会　鈴木　董

12月９日　（汎アジア部門）

報　告　部門の研究概況　末成道男

研究発表　　比較思想から見た清代の文字獄　　岡　本　サ　エ

清代（1644～1911年）の文化が，文献考証学に偏った理由は何であろうか。清朝学術史上で特筆されるのは，満人首脳部が，漢人知識層に対して行った「文字獄」（著作や手紙の内容を当局が摘発して処罰した事件で，例えば乾隆帝の在任中120回）や「禁書」（朝廷が全国の行政機関に命じて約15万点の本をリストアップした思想統制）である。内外に向かって，「中華」の正統な王朝たることを宣言した満人は，18世紀まで漢文が読めない少数民族であり，中国文化の発展よりも，反満文書，明代（1367～1644年）の「風気」・「実学」などを抹殺して政権の安定を計ろうとした。その結果，中国では，政治は全く議論できず，経書校訂以外の思想・歴史，暦と水利以外の科学は禁止される，厳格な言論規制がしかれたのである。19世紀の「西洋夷」のインパクト以前に，漢民族はすでに満洲族による植民地的支配を受けていた。日本に現存する清代禁書は，禁書書目の30％にも満たないが，そこにも，伏せ字，削除，改版などが認められ，文人側の自粛が著しい。

討論は，王朝の性格と時代の性格，文字獄の告発者，エスニック性，テキスト支配など多岐にわり，イスラム世界にも共通する問題点のあること，思想統制の奥行きの深さなどが指摘された。

今後は，文字獄を生き延びた伏流が，いかに清末の「経世致用」や「通学」に連なるか，東アジア・西欧との比較，漢人側の自己規制などを調査し，前近代中国の思想環境を明らかにする予定である。

討論　鈴木　董　　司会　松井　健

E　内外学術研究・調査

1．特別事業による海外現地研究

蜂屋　邦夫　（1992.3.11～92.4.15）主な調査地点は，河南（商丘・淮陽・鹿邑）・安徽（亳州・蒙城・淮南・鳳台・寿県・蚌埠・懐遠・臨淮鎮・定遠）で

あり，これらの地方の道教の現状を調査した。

柳澤　悠　(1993.1.4～93.2.7) インドとバングラデシュで調査活動を行った。南インドのマドラス市の公文書館で19世紀前半期の未公刊文書の収集を行う一方，マドラス大学やデリー大学を訪問して，研究者と意見交換を行った。バングラデシュでは，ダッカ市近郊の2村で農業経営と手工業（手織業）の実態の調査を行ったほか，ダッカ大学にて意見交換を行うなど，成果をえることができた。

蜂屋　邦夫　(1994.2.19～94.3.27) 主な調査地点は福建省の福州，南平，武夷山，邵武，建陽，福清であり，これらの地方の道教の現状を調査した。

鈴木　董　(1944.7.28～94.8.16) 前近代オスマン帝国の政治社会史につき史料調査収集及び研究者と意見交換した。トルコでは，イスタンブルのオスマン古文書館，トプカプ宮殿博物館附属古文書館，スレイマニエ図書館等を訪問し，マルマラ大学，イスラム文化センターなどで意見交換を行い，アンカラではアンカラ大学にて研究打ち合わせを行った。オーストリアのウィーンでは国立図書館写本部にて，旧ハンメル・プルグスタール所蔵本を中心に調査しフィルムを収集した。

2．文部省科学研究費による研究・調査

○文部省科学研究費補助金；総合研究 (A)

猪口　孝「脱冷戦期の国際機構と日米関係」

研究代表者：猪口孝（東京大学東洋文化研究所），研究分担者：田中明彦（東京大学東洋文化研究所），草野厚（慶応大学），土山実男（青山学院大学），古城佳子（国学院大学），赤根谷達雄（筑波大学），近藤哲夫（東京大学教養学部）。

冷戦後の世界秩序は大きく変化してきているが，なかでも2大経済大国である日米の役割が大変変化しようとしている。地球規模でさまざまな政策課題に取り組まなければならないために，国際機構との関わりが注目されている。本研究は日米を軸とし，さまざまな国際機構を対象に取り上げ，日米が

どのような役割を果たそうとしているか，どんな協調が可能か，どのような対立が起こりそうか――などの問いかけのもとで，冷戦後の国際機構の役割を理論的に分析・評価し，同時に日米の外交の性格と特徴をも把握しようとするものである。

1993年：240万円。

柳澤　悠「植民地期インドにおける農村工業等の展開と農村構造の変容：日本の経験を背景に」

研究代表者：柳澤悠（東京大学東洋文化研究所），研究分担者：清川雪彦（一橋大学），谷口晋吉（一橋大学），中里成章（神戸大学），水島司（東京外国語大学），大野昭彦（成蹊大学），脇村孝平（大阪市立大学），粟屋利江（東京大学文学部）

この研究は，農村工業や商業・移民など農業外の諸農村活動の影響によって，植民地期のインド農村社会がいかに変容したかを明らかにすることを目的とした。インド各地を分担して，製糖業，手織物業，人口変動や家族形態の変化などを，日本のケースとの比較の視点を入れて検討し，労働集約技術の意義など，インド経済史を見る新たな視点の提出につとめた。また，人口変動など，日本と大きな差異が存在することも明らかとなった。

1992年度：300万円，1993年度：200万円

永ノ尾　信悟「ヒンドゥー儀礼の歴史性，地域性及び社会階層性に関する研究」

研究代表者：永ノ尾信悟（東京大学東洋文化研究所），研究分担者：石井溥（東京外国語大学），臼田雅之（東海大学），小倉泰（東京大学東洋文化研究所），関根康正（学習院女子短期大学），田中雅一（京都大学），三尾稔（東京大学教養学部），森雅秀（高野山大学），山下博司（名古屋大学），横地優子（東京大学文学部）

ヒンドゥー教の年中儀礼を総合的に研究。プラーナ文献，ダルマニバンダ文献，各地方のカースト・部族の報告書，人類学者が行ったフィールド調査の報告，1961年度のインド国勢調査の資料，各研究分担者のフィールド報告と様々な資料から年中儀礼の分析を行い，歴史的な形成過程，地方差，属す

る社会階層の差による儀礼の種類の変化等を考察して，インドの文化的特質を解明する。

1993年度：250万円

○文部省科学研究費補助金；重点領域研究

原　洋之介　「地域発展の固有論理」

研究代表者：原洋之介（東京大学東洋文化研究所），研究分担者：海田能宏（京都大学），高阪章（京都大学），長峰晴夫（名古屋大学），末廣昭（東京大学社会科学研究所），井上真（東京大学農学部）

本研究は，東南アジア地域の実態にこだわりながら，主として経済発展の面でどういう地域性ないし固有性がみられるかを解明することを目的としている。それと同時に，この解明を通じて，地域研究に関するより本格的な手法の確立にも貢献しようとしている。

本年度は，4か年計画の出発の年度でもあったので，主として地域研究と経済学という二つの社会科学との関係について集中的に検討を加えた。その一応の研究成果として『地域研究と経済学：経済発展の地域性の解明をめざして』を公表した。

1993年度：780万円

○文部省科学研究費補助金；一般研究　(C)

松井　健　「琉球列島における宗教施設の構造と空間配置を手がかりとするエスノ・ヒストリーの研究」

研究代表者：松井健（東京大学東洋文化研究所）

琉球列島先島地方における宗教活動は，18世紀以来琉球王府の介入のもとにあったことが歴史研究から明らかになっている。本研究は，現在の時点における宗教的な施設，とくに水にかかわる信仰対象となっている井戸と神女たちが夜ごもりの儀礼をおこなう小屋の構造とそれらの空間的な配置をてがかりに，琉球列島南部地方の宗教儀礼のなかでも，中心的な重要性をもって

いる井戸と夜ごもりの儀礼が現在のようなかたちをとるようになった時期を明らかにしようと試みるものである。

1993年度：117万円

○文部省科学研究費補助金；国際学術研究

a．本研究所スタッフが研究代表者であるもの

蜂屋　邦夫「中国文化における道教の位置と現状についての総合的調査」

研究代表者：蜂屋邦夫(東京大学東洋文化研究所)，研究分担者1992年度：高橋忠彦(東京学芸大学)，原田二郎(帝京大学)，吉田純(名古屋大学)，横手裕(京都大学)，曹章棋（上海科技管理幹部学院）

1993年度：高橋忠彦，原田二郎，前田繁樹(山村女子短期大学)，横手裕，曹章棋

1992年度：調査出張期間は9月8日より11月6日まで，調査地点は，北京・天津・遼寧（瀋陽・千山・大孤山・鳳凰山・鉄刹山）・山東（嶗山・掖県・蓬萊・牟平・文登・乳山）・河南（開封・鄭州・登封・洛陽）・西安・湖北（武漢・武当山）・上海・江蘇（茅山・蘇州）。

1993年度：調査出張期間は9月9日より11月11日まで，調査地点は，上海・浙江（杭州・紹興・黄岩・温州）・福建（福州・莆田・泉州）・広東（恵州・羅浮山・広州）・湖南（衡山・南岳・長沙）・江西（萍郷・閣阜山・南昌・龍虎山）である。

1992年度：1200万円，1993年度：1100万円

加納　啓良「現地調査と歴史データによるインドネシア農家経済の系譜的分析」

研究代表者：加納啓良（東京大学東洋文化研究所），研究分担者：田中学（東京大学農学部），水野広祐（アジア経済研究所），Mubyarto（ガシャマダ大学），Djoko Suryo（ガシャマダ大学），Frans Hüsken（ネイメーヘン大学），Peter Boomgaard（オランダ王立民族学研究所）

オランダ植民地支配下の20世紀初頭に中部ジャワ北海岸のチョマル地方

で，当時の蘭印糖業企業シンジケートが実施した24か村約3000世帯の農家経済調査の報告書のデータをベースラインとして，同じ地方での追跡調査とオランダ，インドネシア両国でのアーカイブにおける史料調査とによって，過去約100年間に同地方で生じた社会，経済，政治構造の変化を総合的に解明しようとする国際共同研究（3年間）で，最終年度にあたる1992年には，インドネシアのガジャマダ大学で総括シンポジウムを実施した。

1992年度：200万円

柳澤　悠「インドの土地経営，生産，商業（1760－1930）：日本との比較の視点から」

研究代表者：柳澤悠（東京大学東洋文化研究所），研究分担者：清川雪彦（一橋大学），谷口晋吉（一橋大学），中里成章（神戸大学），水島司（東京外国語大学），大野昭彦（成蹊大学），脇村孝平（大阪市立大学），粟屋利江（東京大学文学部），Peter Robb（ロンドン大学），Burton Stein（ロンドン大学），杉原薫（ロンドン大学），Clive Dewey（レスター大学），B. B. Chaudhuri（カルカッタ大学），Sumit Guha（デリー大学）

この研究は，ロンドン大学SOASの南アジア研究センターとの共同研究で，植民地期のインドの農業経営のあり方が農業外の諸活動との関係でいかに変容したかを検討することを目的とした。92年度には，ロンドンで史料収集に従事するとともに，上記センターとの共同でセミナーを開催し，93年にはロンドン側分担者を招へいして日本で研究会を開き，ロンドンセミナーの成果の刊行に向けて検討を行った。成果は，94年中にインドから刊行の予定。

1992年度：410万円，1993年度：290万円

後藤　明「欧米諸国おける地域研究の現状調査」

研究代表者：後藤明（東京大学東洋文化研究所），研究分担者：板垣雄三（東京大学），佐々木高明（国立民族学博物館），松原正毅（国立民族学博物館）

わが国において地域研究機関を発展させるために必要な情報を，欧米諸国の地域研究機関の実態の調査を通して収集することが本研究の目的で，1992年度においては，ドイツ，フランス，イギリスの3か国の30機関を，後藤の

ほか，研究分担者の板垣，研究協力者の羽田正と高橋和夫の4人が手分けして訪れ，必要な情報を収集した。

1992年度：250万円

羽田　正「イスラム世界における都市空間に関する比較研究」

研究代表者：羽田正(東京大学東洋文化研究所)，研究分担者：92年度，横山正(東京大学教養学部)，三浦徹(お茶の水女子大学)，林佳世子(東京大学東洋文化研究所)，小倉泰(東京大学東洋文化研究所)

93年度，横山正，藤井恵介(東京大学工学部)，林佳世子(東京外国語大学)，小倉泰

92年度は，イスラエル(エルサレム)，トルコ(イスタンブル，アンカラ，コンヤ，カイセリ，シヴァス，エルズルム，ディヤールバクルなど)，シリア(アレッポ，ダマスクスなど)，93年度は，チュニジア(チュニス，カイラワーンなど)を主たる調査地域として，各地の都市における宗教建築物と庭園の分布，規模，都市内でこれらの施設が果たしている役割などを調査した。また，現地の研究者との意見交換も行った。

1992年度：600万円，1933年度：300万円

b．本研究所スタッフが研究分担者として参加しているもの

「アジア系ラテンアメリカ人の民族性と国民統合」(1992年度，研究代表者：前山隆(静岡大学))，参加者：**関本　照夫**

「ジャワ更紗を中心とする歴史・意匠・技術の総合調査」(1992年度～94年度，研究代表者：小笠原小枝(日本女子大学))，参加者：**関本　照夫**

「東アジアにおける生産と流通の歴史社会学的研究」(1992年度，研究代表者：川勝賢亮(九州大学))，参加者：**平勢　隆郎**

「『唐令拾遺補』の編纂及び唐・日両令の比較研究」(1992年度，研究代表者：小口彦太(早稲田大学))，参加者：**川村　康**

「欧米諸国における地域研究の実態調査」(1992年度，研究代表者：後藤明(東京大学東洋文化研究所))，参加者：**羽田　正**

「イスラム世界における都市空間構成に関する比較研究」(1992年度，研究代表者：羽田正（東京大学東洋文化研究所)），参加者：**林　佳世子**

「『中国絵画総合図録』増補改訂版制作のための日本国内の中国絵画調査」(1992年度・93年度，研究代表者：戸田禎佑（東京大学東洋文化研究所)），参加者：**小川　裕充**

「イスラム世界における都市空間構成に関する比較研究」(1992年度・93年度，研究代表者：羽田正（東京大学東洋文化研究所)），参加者：**小倉　泰**

「古代中世東南アジアとインドとの間の文化交流の再検討」(1992年度・93年度，研究代表者：辛島昇（東京大学文学部)），参加者：**小倉　泰**

「東南アジア近代における文化の自画像の形成」(1993年度，研究代表者：清水展（九州大学)），参加者：**関本　照夫**

「東南アジア地域体系の形成と周辺地域への関与」(1993年度，研究代表者：山影進（東京大学教養学部)），参加者：**濱下　武志**

「海域世界の地域間比較」(1993年度，研究代表者：高谷好一（京都大学)），参加者：**濱下　武志**

「インド法典の形成とヒンドゥー教」(1993年度，研究代表者：井狩彌介（京都大学)），参加者：**永ノ尾　信悟**

「総合的地域研究の手法確立」(1993年度，研究代表者：矢野暢（京都大学)），参加者：**鈴木　董**

「地中海研究」(1993年度，研究代表者：竹内啓一（一橋大学)），参加者：**鈴木　董**

「ヒンドゥー教と寺院の伝統」(1993年度，研究代表者：永ノ尾信悟（東京大学東洋文化研究所)），参加者：**小倉　泰**

3．その他の経費による研究・調査

○高梨財団

末成　道男　「地方文書を利用したベトナム社会の人類学的研究」

ベトナム農村第三回調査，93.7.11より8.10日まで，念願かなってHai

Hungで初めて村に5日泊まることが出来た。村内各所の見物に4日，1日を駆け足で戸別訪問を試みる程度であったが，地方文書などを中心に収穫があった。次いで，桃木・桜井隊の紅河流域調査に1週間参加し，単独の人類学調査では味わえない経験を得た。少数民族ムオン族の村落に5日滞在を許され，高床式生活での現地観察を行うことができた。しかし，間もなく電気が入り，開発に伴う森林の急速な後退など，急激な変化は，古典的人類学の場をますます狭めるであろう。

1993年度：60万円

○順益台湾原住民博物館　林迺翁文教基金会

末成　道男「台湾原住民研究」

研究代表者：末成道男（東京大学東洋文化研究所），土田滋（東京大学文学部），王崧興（千葉大学），松澤員子（国立民族学博物館），笠原政治（横浜国立大学），山路勝彦（関西学院大学），森口恒一（横浜国立大学），清水純（日本大学），姫野翠（昭和音楽大学），馬淵悟（北海道東海大学），中村孝志（天理大学名誉教授），長沢利明（東京理科大学），Christian Daniels（東京外国語大学）

同基金会よりの申入れは，①台湾原住民研究のため，②広く日本の研究者を組織し，③研究成果には「順益台湾原住民博物館賛助」の旨を明記するというほとんど無条件に近い助成なので，委任経理金として受け入れることが認められた。1994年3月より4年間に，①原住民の社会文化言語に関する現地調査，②先人および参加者の調査研究資料の整理と公表，③研究成果の総括と展望を一冊の本にまとめる。台湾は，日本の人類学が100年あまり前に誕生して以来重要なフィールドであったが，現在この遺産が十分に継承されているとは言い難いので，本研究では成果の現地還元と若手研究者の養成をも心がけたい。

1993年（～1996年）　各年度：1,000万円

○二十一世紀文化学術財団「学術奨励金」

猪口　孝「戦後日本経済社会変動との関連でみる公共政策と政党政治――二十一世紀に向けた日本社会デザインのための実証的基礎研究」

公共政策（政府支出）と政党政治（選挙公約）を歴史的に体系的に関連付けながら，日本の政治の仕組みを明らかにしようとするもので，どの政党分野で与党，野党，官僚機構，業界，世論などが政府支出の増減に比較的影響力を及ぼすかを実証するものである。

1992年度，1993年度：300万円

○鹿島美術財団

林　秀　薇「美術に関する調査研究」

平成四年度に，「元代白描画研究――趙孟頫〔水村図巻〕を中心に」という研究課題で中国北京故宮博物院にて現物作品の調査を行った。

1992年度：70万円

○三菱財団

戸田　禎佑「海外所在中国絵画の抜本的再調査」

本研究は，十余年前に刊行された「中国絵画総合図録」（全5巻）の増補改訂版出版のための基礎的な写真資料の収集のために行われた。1991年度はヨーロッパ各地のコレクション18か所で，474件の作品について，1992年度には，アメリカ，カナダで1191件の作品について調査撮影を行った。

1992年度：250万円

松谷　敏雄「遺跡の選定」

研究分担者：西秋良宏

1994年以降に発掘調査する遺跡を選定するための調査を行い，テル・コサックを選んだ。

1993年度：200万円

4．私費による海外学術調査

末成　道男　ベトナム農村第一回調査　92.7.15～8.10，紅河流域8か村の農村調査。主に，dinh（亭），den（墩），chua（寺）を見てまわる通訳つきの日帰り調査で，村内に1泊できたのは1か所のみであった。人類学者としては，フラストレーションがたまるはずだが，初めてのベトナムなので，見るもの聞く

もの珍しく，中国の影響の濃厚な文物，日本的心情の合う人間関係，韓国や沖縄と類似した風景に出会うなど瞬く間に１か月が経った。ハノイ市内においても，家庭の位牌，寺での四十九日法要，忌日祭祀などを見る事が出来た，印象深い調査であった。

ベトナム農村第二回調査　92.9.26～10.17。今回は，祠堂を中心テーマとした。先回とは違って，住み込み調査を条件に出かけたが村側でのガードは堅く，河北では同じ村を１週間通いの調査になった。南定では，書記長の許可まで取り付けたものの通い２日に終わったが，鍛冶村落で面白かった。最後にハノイ郊外の村で１泊調査が認められた。秋のせいか祭，結婚式や嫁入り行列を新たに見ることが出来た。

宮嶌　博史　1991年４月から1992年９月まで韓国にて海外資料調査を行った。内容は，(1)李朝時代の量案（検地帳）と植民地時代の土地台帳の収集・調査とその比較検討，(2)李朝時代から近代にかけての私文書の調査，(3)89～90年度に行った植民地期の水利組合に関する日・韓共同研究のまとめと報告書の刊行，等である。また滞在中，韓国法史学会，韓国経済史学会で研究報告を行い，研究者との交流を深めた。

林　佳世子　イギリス・トルコ共和国・アゼルバイジャン共和国。平成５年２月22日から３月14日まで，オスマン朝史研究に関する資料調査のため。

山中　由里子　1993年６月末から９月上旬にかけて現地調査のためイスラエル，エジプト，トルコ，チュニジアをまわった。主な目的はイスラエルのベングリオン大学が主催したネゲヴ砂漠のベドゥインの言語・歴史・文化に関する６週間の講座に参加することであった。講座終了後，上記４か国の都市建築，遺跡，博物館などの実地調査も行った。

F　国際学術交流

1．外国出張（1992～93年度）

氏名	出張先	期間	目的
濱下　武志	香港	92.4.1 ～92.5.28	香港大学歴史学部におけるセミナー・資料調査
猪口　　孝	米国，スイス	92.4.3 ～92.4.9	全米経済研究協会主催の「アジア太平洋地域における日本とアメリカ」会議参加と国連大学・国連本部主催の「多国間主義と国連」会議に参加
田中　明彦	中国	92.4.4 ～92.4.8	「緊張緩和と地域経済協力－日米中ソ4カ国共同作業」プロジェクト合同会議に出席
田中　明彦	ポルトガル	92.4.23 ～92.4.29	日米欧委員会第23回リスボン総会に出席
加納　啓良	インドネシア	92.4.29 ～92.5.10	インドネシア人若手研究者の研究成果報告会（トヨタ財団主催）出席と国際共同研究プロジェクトの打ち合わせ
関本　照夫	インドネシア	92.4.29 ～92.5.10	インドネシア若手研究者奨励研究助成成果報告会参加および研究打ち合わせ
田中　明彦	米国	92.5.6 ～92.5.10	ニューヨーク日本協会主催マッケクロン政策フォーラムで発表
原　洋之介	インドネシア，台湾	92.4.25 ～92.5.11	科学技術，産業開発にかかわる行政対応の調査
濱下　武志	香港	92.6.3 ～92.6.30	香港大学歴史学部におけるセミナー・資料調査
田中　明彦	韓国	92.6.12 ～92.6.14	「第10回日韓知的交流会議」に出席
岡本　サエ	中国	92.6.25 ～92.7.1	国際シンポジウム「儒学および其の現代的意義」に出席
柳澤　　悠	英国	92.7.7 ～92.8.8	科学研究費補助金（国際学術研究）による「インドの土地経営，生産，商業(1760～1930年)：日本との比較の視点から」の研究
末成　道男	ベトナム，タイ，中国	92.7.14 ～92.8.12	葬送儀礼の予備的調査
関本　照夫	インドネシア	92.7.24 ～92.8.11	伝統バティックに関する調査とセミナー開催

加納　啓良	インドネシア	92.7.27 ～92.8.12	科研費（国際学術研究）による国際共同研究の総括セミナー実施のため
原　洋之介	インドネシア	92.7.19 ～92.7.26	地域開発計画にむけての人材育成事業に関する打ち合わせ
林　佳世子	トルコ，シリア，イスラエル	92.8.18 ～92.9.28	イスラム世界における都市空間構成に関する比較研究
羽田　　正	エジプト，イスラエル，トルコ，シリア	92.8.22 ～92.9.20	科研費(国際学術研究)「イスラム世界における都市空間構成に関する比較研究」の現地調査
小倉　　泰	エジプト，イスラエル，トルコ，シリア	92.8.22 ～92.9.20	イスラム世界における都市空間構成に関する比較研究
鈴木　　董	トルコ	92.8.26 ～92.9.11	前オスマン史およびオスマン史研究国際シンポジウム出席および資料収集・研究調査
小倉　　泰	インド	92.8.1 ～92.8.15	科研費（国際学術研究）によるタイ・マレーシア調査のためのインド側研究者との研究連絡
蜂屋　邦夫	中国	92.9.8 ～92.11.6	道教の現状についての総合的調査（科研費・国際学術研究）
猪口　　孝	中国	92.9.2 ～92.9.5	国際シンポジウムにおいて報告
猪口　　孝	韓国	92.9.9 ～92.9.12	国際戦略問題研究所年次大会において報告
田中　明彦	米国，韓国	92.9.7 ～92.9.13	Pacific Forum/CSIS 会議に出席（ハワイ），国際戦略問題研究所第34回年次総会に出席
関本　照夫	オランダ，スリナム，トリニダード・トバゴ，米国	92.9.20 ～92.12.19	科研費(国際学術研究)「アジア系ラテンアメリカ人の民族性と国民統合」による海外学術調査
松井　　健	モンゴル	92.9.20 ～92.10.4	経済社会開発と農牧業の現状についての調査
末成　道男	香港，ベトナム	92.9.22 ～92.10.18	①International Conference on Hakkaology に参加　②ベトナムの農村調査
田中　明彦	中国	92.9.24 ～92.9.26	日中青年研究者シンポジウム「21世紀への日中関係の展望」に出席

丘山　新	ドイツ，英国，フランス	92.10.1～92.2.10	ドイツ・ミュンヘン大学での中国・敦煌文献に関する共同研究，およびヨーロッパ所在の敦煌文献の調査
田中　明彦	米国	92.10. 8 ～92.10.13	シカゴ日米協会・日米経済協議会主催「日米ビジネス・サマー・キャンプ」に講師として参加
戸田　禎佑	台湾，香港	92.10.23 ～92.11.10	海外所在中国絵画の総合的調査
小川　裕充	台湾，香港	92.10.23 ～92.11.25	海外所在中国絵画の総合的調査
林　秀　薇	台湾	92.10.23 ～92.11. 9	中国絵画収蔵品調査・研修
濱下　武志	香港	92.10.29 ～92.11. 2	香港史セミナーに参加
羽田　正	ドイツ，フランス，英国	92.11. 8 ～92.11.22	欧米諸国における地域研究の現状調査
後藤　明	フランス，英国	92.11.18 ～92.11.29	欧米諸国における地域研究の現状調査
末成　道男	米国	92.12. 1 ～92.12.10	アメリカ人類学会協会91回年次大会シンポジウム“Identity and Ritual in the Anthropology of China : Recent Research from Tokyo”に参加
末成　道男	台湾，香港	92.12.27 ～93. 1 .10	①国際シンポジウム“International Symposium on Austronesian Studies Relating to Taiwan”に参加 ②“民間文献與華南地域社会検討會”に参加
濱下　武志	中国	92.11.27 ～92.12. 5	亜太地区経済文化合作国際検討会に参加
小川　裕充	韓国	92.12. 7 ～92.12.12	海外所在中国絵画の総合的調査
戸田　禎佑	韓国	92.12. 7 ～92.12.12	海外所在中国絵画の総合的調査
小倉　泰	マレーシア，タイ	92.12.22 ～93. 1 .10	マレーシア・タイにおける古代中世インド化王国の遺跡調査
宮嶌　博史	韓国	92.12.24 ～92.12.27	韓国地形図の調査

友杉　孝	タイ	92.12.30 ～93.1.8	バンコク社会の現地調査
田中　明彦	米国	93.1.4 ～93.1.12	ハワイ大学東西センター開催「過渡期のアジア」研究会議およびパシフィック・フォーラム主催「中国と東南アジア」研究会議に出席
柳澤　悠	インド，バングラデシュ	93.1.4 ～93.2.7	南アジア経済構造の変容に関する研究のため現地資料収集および現地研究者との意見交換
松井　健	インドネシア	93.2.1 ～93.2.15	工芸と社会についての比較および資料収集
後藤　明	マレーシア，インドネシア	93.2.20 ～93.2.28	両国におけるイスラーム運動の実態調査
濱下　武志	米国	93.2.21 ～93.2.27	中国東北地方資料プロジェクト（プリンストン大学）に参加
林　佳世子	英国，トルコ，アゼルバイジャン	93.2.22 ～93.3.14	オスマン朝史研究に関する資料調査
関本　照夫	米国	93.3.3 ～93.3.10	米国社会科学研究協議会東南アジア委員会出席
猪口　孝	米国	93.3.7 ～93.3.14	カリフォルニアバークレイ校で共同研究と講演
田中　明彦	ドイツ	93.3.10 ～93.3.14	第4回ドイツ・フォーラムに参加および報告
蜂屋　邦夫	中国	93.3.11 ～93.4.15	学術上の交流および道教の現状調査
濱下　武志	米国，英国	93.3.12 ～93.4.22	①カリフォルニア大学(アーバン校)歴史学部訪問（資料調査研究）②ロンドン大学・アジア・アフリカ学院において会議
猪口　孝	米国，中国	93.3.17 ～93.3.24	①共同研究のための会議②ウィリアムズバーグ会議に参加（広東省において）
鈴木　董	シンガポール，トルコ	93.3.20 ～93.4.2	アジア諸国に於ける宗教と経済等に関する調査および資料収集
宮嶌　博史	韓国，中国	93.3.21 ～93.4.2	中国延辺朝鮮族自治州における調査
加納　啓良	インドネシア	93.3.21 ～93.3.25	外務省の地域研究振興事業の評価と助言

田中　明彦	米国，ベルギー	93.3.26 ～93.4.4	1993年度日米欧委員会年次総会および第14回日欧会議に出席
後藤　　明	エジプト，イエメン	93.3.27 ～93.5.28	サナア大学（イエメン）客員研究員として研究に従事（ほか日本学術振興会カイロ事務所訪問）
猪口　　孝	中国	93.3.29 ～93.4.1	北京大学日本学研究センターにおいて現代日本研究コースの講義と講演
林　秀　薇	中国	93.3.29 ～93.4.2	絵画作品に関する研修
原　洋之介	インドネシア，タイ	93.4.4 ～93.4.17	海外協力事業の事後評価
鎌田　　繁	イラン	93.4.15 ～93.4.26	シャイフ・ムフィード国際学会出席
関本　照夫	インドネシア	93.4.21 ～93.4.30	トヨタ財団セミナー参加および研究打ち合わせ
加納　啓良	インドネシア	93.4.21 ～93.5.2	①トヨタ財団若手研究者助成プログラム研究報告会出席 ②共同研究プロジェクト最終報告（英語版，インドネシア語版）編集，出版の打ち合わせ
田中　明彦	米国	93.5.6 ～93.5.10	ニューヨーク市立大学ラルフ・バンチ国連研究所主催ワークショップで研究発表
猪口　　孝	デンマーク	93.5.14 ～93.5.19	学術会議参加報告
山中由里子	イスラエル，エジプト，トルコ，チュニジア	93.6.22 ～93.9.7	ネゲブ地方のベドゥインに関する連続講義に参加のためおよびアレクサンドロス物語に関する資料蒐集
田中　明彦	オーストラリア	93.7.5 ～93.7.11	オーストラリア日本研究学会1993年大会で研究報告
末成　道男	ベトナム	93.7.11 ～93.8.10	ベトナムの村落調査
鈴木　　董	トルコ，オーストリア	93.7.28 ～93.8.16	オスマン帝国史に関する資料の調査・収集ならびに研究打ち合わせおよび意見交換
濱下　武志	中国，香港	93.8.1 ～93.9.12	上海経済史資料調査および会議に参加

黨　武彦	中国	93.8.18 ～93.8.29	中国河北・山東省の社会調査および資料収集
永ノ尾信悟	香港	93.8.22 ～93.8.28	国際アジア・北アフリカ学会（ICANAS）で研究発表
田中　明彦	中国	93.8.23 ～93.8.29	中国現代国際関係研究所主催第5回日中シンポジウムに出席
小川　裕充	中国	93.8.26 ～93.12.8	北京日本学研究センター（北京外国語学院内）における日中比較文化特殊研究
後藤　明	イスラエル	93.9.4 ～93.9.11	国際研究集会「ジャーヒリーヤからイスラームへ」に出席
羽田　正	英国，チュニジア，フランス	93.9.5 ～93.10.2	科研費による学術調査（イスラム世界における都市空間構成に関する比較研究―庭園とモスクを中心として―）現地調査
蜂屋　邦夫	中国	93.9.9 ～93.11.11	科研費（国際学術研究）による道教の現状に関する現地調査
小倉　泰	チュニジア	93.9.15 ～93.9.26	科研費「イスラム世界における都市空間構成に関する比較研究」による，チュニジアのモスク調査
松谷　敏雄	シリア	93.10.2 ～93.10.11	遺跡選定（ユーフラテス川流域ティシュリン地方の遺跡調査）
田中　明彦	マレーシア，米国	93.10.11 ～93.10.19	マレーシア戦略・国際研究所（ISIS）での講演および安倍フェローシップ企画委員会に出席
濱下　武志	英国，ロシア連邦，ポルトガル，モロッコ，トルコ	93.10.16 ～93.11.10	地中海交易のネットワークに関する現地調査
関本　照夫	英国	93.10.21 ～93.10.30	米国社会科学研究所協議会東南アジア委員会出席
田中　明彦	米国	93.10.26 ～93.10.30	「朝鮮半島についての日米韓会議」第3回ワシントン会議に出席
丸尾　常喜	韓国	93.11.4 ～93.11.8	第三回中国現代文学学術検討会（韓国・中国現代文学学会）
原　洋之介	フィリピン	93.11.7 ～93.11.13	研究協力事業の総合評価
原　洋之介	ベトナム，インドネシア，タイ	93.11.28 ～93.12.13	中小企業施策担当者現地セミナーでの講演と現地調査

濱下　武志	米国	93.12. 3 ～93.12. 6	プリンストン大学における会議参加（中国，シベリア関係史会議）
田中　明彦	ロシア連邦	93.12. 4 ～93.12.11	ロシアの国際システムへの統合状況の実態調査
柳澤　　悠	英国	93.12.11 ～93.12.25	科研費（国際学術研究）「インドの土地経営，生産，商業（1760～1930年）」の研究
加納　啓良	インドネシア	93.12.11 ～93.12.26	①農村総合開発計画の調査　②国際共同研究の成果の出版計画打ち合わせ　③日系合弁企業のインドネシア人管理職員のための文化講演
関本　照夫	オランダ	93.12.11 ～93.12.19	国際インドネシア研究集会に出席
宮嶌　博史	韓国	93.12.17 ～93.12.24	韓国経済史学会主催国際シンポジウム“韓国経済発展に対する歴史的認識”
小倉　　泰	インドネシア	93.12.23 ～94. 1 .11	科研費（国際学術研究）による「古代中世東南アジアとインドとの間の文化交流についての再検討」にもとづく，スマトラ，ジャワ，バリのヒンドゥー遺跡調査
田中　明彦	米国	94. 1 . 6 ～94. 1 .10	Pacific Forum/CSIS 主催「中国と北東アジア：21世紀への展望」会議に出席
永ノ尾信悟	オーストラリア	94. 1 . 7 ～94. 1 .16	第 9 回世界サンスクリット学会参加
猪口　　孝	米国	94. 1 .21 ～94. 1 .25	イースト・ウェスト・センターの国際諮問委員会参加
永ノ尾信悟	インド	94. 1 .30 ～94. 2 .20	調査研究（ビハール州の寺院）
蜂屋　邦夫	中国	94. 2 .19 ～94. 3 .27	道教文化研究に関する現地調査
田中　明彦	英国，米国	94. 2 .21 ～94. 4 . 1	英国王立国際問題研究所・㈶世界平和研究所共催第 4 回国際安全保障会議に出席およびジョージワシントン大学での講演
小倉　　泰	インド	94. 2 .21 ～94. 3 . 5	ガンガイコンダチョーラプラム遺跡の現地調査
松谷　敏雄	台湾	94. 3 . 9 ～94. 3 .11	台湾原住民に関する研究計画の打ち合わせ

末成　道男	台湾	94.3.9 ～94.3.11	台湾原住民に関する研究計画の打ち合わせ
関本　照夫	米国	94.3.18 ～94.4.2	①アメリカ社会科学研究協議会東南アジア委員会出席　②アメリカ・アジア学会年次大会出席
濱下　武志	米国，カナダ，中国，香港	94.3.24 ～94.4.18	会議参加と資料調査
猪口　　孝	ベトナム	94.3.26 ～94.3.29	ウイリアムズバーグ会議参加

2．外国人研究者等（1992～93年度）

氏　名（国籍・現職）	期　　間	研究課題	担当教官
Adrian Davis （米国・ハーバード大学・院生）	1991.10.1～92.7.31	Homicide and the State during the Qing Dyanasty	濱下　武志
Timothy Brook （カナダ・トロント大学・歴史学部・教授）	1992.4.1～92.5.31	東部中国の新政府と地方エリート，1937～41	濱下　武志
Todhunter, Maureen Patricia （オーストラリア・クウィンズランド大学日本・中国研究学部・研究員）	1992.4.10～93.4.9	日本の対外政策の手段としての国際文化交流	田中　明彦
李　度　珩 （韓国・朝鮮日報論説員）	1992.5.1～93.6.30	日本の韓国併合とその主な推進役達に関する研究	田中　明彦
薛　　源 （中国・コロンビア大学政治学・院生）	1992.4.1～94.9.30	日本の対中経済援助・80年代日本の対中国政策	田中　明彦
R. Bin Wong （米国・カリフォルニア大学アーウァン校歴史学部・助教授）	1992.10.15～92.12.15	近代東アジア国際貿易における経済文化	濱下　武志
Hans Daiber （ドイツ・Vrije Universiteit（オランダ・アムステルダム）・教授）	1992.4.15～92.7.15	イスラーム思想における写本研究	鎌田　　繁
Steven Lloyd （英国・エセックス大学・院生）	1992.4.24～93.3.31	日本と第三世界―政府開発援助	猪口　　孝

高　明　潔 (中国・中央民族学院民族研究所・講師)	1991.10. 1～93. 9 .30	内蒙古遊牧社会の人類学的研究—内蒙古錫林郭勒	末成　道男
金　永　明 (韓国・Dept. of Political Science, Hallym University (翰林大学校)・副教授)	1992. 9 . 1～93. 8 .31	日韓政治発展比較研究	猪口　孝
Thavatchai Tangsirivanich (タイ・国際問題研究所・研究員)	1992.10. 1～93. 9 .30	日本と東南アジアの安定	猪口　孝
聶　莉　莉 (中国・東大総合文化研究科・非常勤講師)	1992.10. 1～93. 9 .30	中国農村におけるキリスト教の受容とその土着化	末成　道男
林　明　徳 (中国・中央研究院近代史研究所・研究員兼台湾師範大学・教授)	1992. 7 . 9～92.12.31	「日露戦争と中国」および「地域研究—直隷省」	松丸　道男
Bodo Wiethoff (ドイツ・Bochum 大学・教授)	1992.10. 1～93. 1 .31	日清期中国社会経済史	濱下　武志
銭　世　明 (中国・上海社会科学院経済研究所政治経済研究室・副主任（研究員))	1993. 1 .10～93. 1 .30	流通史・流通機構の日中比較研究	濱下　武志
顧　光　青 (中国・上海社会科学院経済研究所微観経済研究室・副主任)	1993. 1 .10～93. 1 .30	流通史・流通機構の日中比較研究	濱下　武志
陳　宏　坤 (中国・上海社会科学院経済研究所弁公室・副主任)	1993. 1 .10～93. 1 .30	流通史・流通機構の日中比較研究	濱下　武志
邵　力　群 (中国・上海社会科学院経済研究所弁公室)	1993. 1 .10～93. 1 .30	流通史・流通機構の日中比較研究	濱下　武志
王　潤　華 (シンガポール・シンガポール大学・助教授)	1992.10.27～92.11. 8	日本における中国文学研究の状況	丸尾　常喜
高嶋　謙一 (カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学・教授)	1992.11.12～93. 6 .30	漢字・漢語の基礎としての甲骨文字研究	松丸　道雄
Peter Cowhey (米国・カリフォルニア大学（サンディエゴ）政治学部・教授)	1993. 1 .18～94. 1 .17	環太平洋地域の電気通信政策	猪口　孝
陳　漱　渝 (中国・北京魯迅博物館魯迅研究室・研究員（主任))	1993. 4 . 1～1993. 6 .30	日本近代文化の中国現代文学に対する影響	丸尾　常喜

Chew, Matthew Ming-tak (香港・プリンストン大学社会学部博士課程・院生)	1993. 4 . 1 ～94.10.31	東京大学と北京大学の初期教育課程の比較研究	濱下　武志
Nguyen Thi Oanh (ベトナム・ベトナム社会科学院漢文字喃研究所・研究員)	1993. 6 .10～94. 6 . 9	江戸期日本および前植民地期ベトナムにおける伝奇文学の比較研究	末成　道男
Tom Gill (英国・ロンドン政治経済学校（LSE）・人類学部博士課程院生)	1993. 6 .11～95. 3 .31	日本における日雇労働者の社会（Social Organization of Day Labourers in Japan）	関本　照夫
Prasert Chittiwatanapong (タイ・タマサート大学政治学部・教授)	1993. 7 . 1 ～93.10.31	冷戦後の日本の役割	田中　明彦
Brian Woodall (米国・ハーバート大学政治学部・助教授)	1993. 7 .20～94. 8 .19	日本の外交エリート	猪口　孝
Lu Yan (中国・Cornell大学博士課程・院生)	1993.12.15～94. 3 .15	中国人の眼に写った日本1895～1945年	濱下　武志
李　景　治 (中国・中国人民大学国際政治系・教授)	1993. 8 . 1 ～94. 3 .31	日本と欧米の政党制度，日本の行政制度	猪口　孝
張　光　裕 (オーストラリア・香港中文大学中国語言及文学系・講師)	1993. 8 . 1 ～93. 8 .31	日本所蔵中国商周彝器銘文研究	松丸　道雄
呉　文　星 (台湾・国立台湾師範大学歴史系・教授)	1993. 8 .15～94. 8 .15	日本統治下に於けるヨーロッパ人の台湾観について	濱下　武志
Mark Elder (米国・ハーバート大学政治学部・院生)	1993. 9 . 1 ～94. 8 .31	中間財の貿易政策形成に関する日本の国内政治	田中　明彦
趙　　軍 (中国・華中師範大学歴史研究所・助教授)	1993. 9 . 1 ～94. 8 .31	辛亥革命期における日本の民間外交について	濱下　武志
Lilian Pudles (フランス・東方言語学院博士課程・院生)	1993. 9 .15 ～94. 9 .14	清末中国の法律教育と日本留学生	濱下　武志
朱　　岩 (中国・国家図書館研究館員)	1993. 9 .27～93.12.26	中国書データ構築システムに関する日中共同研究	岡本　サエ
厲　以　平 (中国・社会科学院経済研究所・副研究員)	1993.10. 1 ～94. 3 .31	日中経済史比較研究	濱下　武志

奚　志　豪 (中国・現代国際関係研究所主任・副研究員)	1993.10.1～94.10.20	90年代における日本外交の成り行きと中日関係	田中　明彦
Adam Schneider (米国・ハーバート大学・院生)	1993.11.25～94.11.24	日本統治期の台湾経済 1895～1945年	濱下　武志
Gotelind Müller (ドイツ・ミュンヘン大学東方研究所・研究員)	1994.1.1～94.3.31	中国と日本におけるアナキズム(1900～1923)	丘山　　新
坂本　隆幸 (カリフォルニア大学サンタバーバラ校政治学部博士課程・院生)	1994.1.27～94.7.30	日本政治における政策決定	猪口　　孝
Idris Feltcamp SULAIMAN (インドネシア・オーストラリア国立大学人文地理学科博士課程・院生)	1994.3.27～94.12.24	アジア太平洋電子工業産業における日本の国際的ダイナミクス	加納　啓良

3．日印人文・社会科学セミナー

1992年9月10日・11日の両日，東洋文化研究所は，日本学術振興会および日本民族学振興会の協力を得て，「近代化過程における日本とインド」をテーマとした日印人文・社会科学セミナーを東京ガーデンパレスで開催した。同セミナーでは，インド側のカウンターパートであるインド社会科学研究協会(ICSSR)のD. N. ダナーガレー教授を含む5名の著名なインド側研究者と日本側25人の研究者が，両国経済と中小企業，技術発展のあり方，政治構造の変化，日本の対インド認識，宗教意識の変化などをめぐって熱のこもった報告と論議を行なった。また，今後の日本とインド間の人文・社会科学分野における学術交流のあり方についても検討されて，その質的発展に向けて一致して努力するとこが合意された。

4．海外との図書の寄贈・交換

海外との研究機関に対して『東洋文化研究所紀要』『東洋文化』『センター叢刊』等について，本研究所発行の図書の寄贈および交換を行っている。それらの国別の交換先の数は次のとおりである。(　) 内の数は，寄贈先の数である。

なお，国内の寄贈は504機関，交換は340機関に対して行っている。

アメリカ合衆国26(21)，イギリス８(８)，イスラエル１(１)，イタリア３(２)，イラン１，インド10(２)，インドネシア１，オーストラリア３(３)，オーストリア１，オランダ１(１)，カナダ１(３)，シンガポール３(１)，スイス１，スウェーデン２(２)，スリランカ１，タイ２(１)，チェコ１(１)，デンマーク１(１)，ドイツ13(10)，トルコ３(２)，ニュージーランド１(１)，パキスタン１，ハンガリー１(１)，フィリピン３(１)，フィンランド１，ブラジル１，フランス11(10)，ベトナム１，ベルギー１(１)，ポーランド１(１)，マレーシア２(１)，メキシコ１，ルーマニア１(１)，ロシア５(４)，大韓民国41(25)，台湾21(６)，中国31(21)，朝鮮民主主義人民共和国２(２)，香港６(５)。

G　学内関連部局との協力体制

本研究所で進められている班研究は，研究所教官の他に本学内他部局教官および学外研究者（164名）と協同で行われており，現在以下のような学内教官が参加している。

◎文学部

池田知久，末木文美士，大木康，広瀬玲子，藤井省三，岸本美緒，武田幸男，粟屋利江，土田龍太郎，桜井由躬雄，部勇造，佐藤次高，中村廣治郎，竹下政孝，横地優子，戸田禎佑，佐藤慎一，尾形勇，板倉聖哲，戸倉英美，飯尾秀幸，石川洋，吉田光男

◎教養学部

山下晋司，長崎暢子，船曳建夫，中村雄祐，石井明，若林正文，山影進，古田元夫，小川晴久，本村凌二，杉田英明，代田智明，刈間文俊，近藤哲夫，浅見靖仁，清水賢一郎

◎農学部

藤田夏樹，永田信

◎工学部

藤井恵介

◎経済学部

武田晴人

◎社会科学研究所

田嶋俊雄，藤原帰一，末広昭

計46名

なお，法学部，経済学部，文学部，社会科学研究所と図書閲覧に関する相互利用協定を結んでいる。

H　国内研究機関との協力活動

〔1992年度〕

委員委嘱

氏　名	委　嘱　先	委員会等の名称	期　間
猪口　孝	国際交流基金	現代日本研究ユース協力委員会委員	1992.4.1 ～94.3.31
猪口　孝	経済企画庁	経済審議会臨時委員	1992.1月末 ～6カ月
田中　明彦	経済企画庁	経済審議会臨時委員	1992.1月末 ～6カ月
田中　明彦	通商産業省	産業構造審議会臨時委員	1992.10.6 ～93.9.30
加納　啓良	農用地整備公団	海外村づくり技術検討委員会委員	1992.10.1 ～93.3.31
後藤　明	国立民族学博物館	総合的な地域研究に関する機関調査に係る調査委員会専門部会委員	1992.6.11 ～93.3.31

末成　道男	日本学術会議	東洋学研究連絡委員会委員	1992.4.1 ～94.10.20
戸田　禎佑	千葉県教育委員会	千葉県立美術館協議会委員	1992.7.1 ～94.6.30
戸田　禎佑	千葉市教育委員会	千葉市立美術館開設文化顧問	1992.9.1 ～93.3.31
戸田　禎佑	文化庁	文化財保護審議会専門委員	1992.9.1 ～94.8.31
濱下　武志	東洋文庫 ユネスコ東アジア 文化研究センター	Asian Reserch Trends 専門委員	1992.6.1 ～93.3.31
原　洋之介	文部省学術国際局 国際協力事業団	マレイシア国国別援助研究会国内委員	1992.6.1 ～93.3.31
原　洋之介	農林水産省 農業総合研究所	農業総合研究所専門委員	1992.4.1 ～93.3.31
松井　　健	国立民族学博物館	国立民族学博物館民族学資料評価委員	1992.4.1 ～93.3.31
松谷　敏雄	国立民族学博物館	総合的な地域研究に関する機関調査に係る調査委員会委員	1992.5.8 ～93.5.8

研究委嘱

氏　名	委　嘱　先	委員会等の名称	期　間
後藤　　明	(財)東洋文庫	研究員（兼任）	1992.4.1 ～93.3.31
鈴木　　董	国際日本文化研究センター	交渉行動様式の国際比較	1992.5.1 ～93.3.31
田中　明彦	国際日本文化研究センター	交渉行動様式の国際比較	1992.4.1 ～93.3.31
田中　明彦	北大・スラブ研究センター	旧ソ連諸国の変動と国際システムへの再統合	1992.10.1 ～94.9.30
濱下　武志	大東文化大学	前近代の世界国際貿易におけるアジア地域内貿易	1992.4.1 ～93.3.31
松井　　健	国立民族学博物館	世界の周辺諸民族の現在，遊牧の歴史，歴史民族学研究	1992.4.1 ～93.3.31
福嶋　真人	国立民族学博物館	宗教体系と民族誌記述の方法	1992.4.1 ～93.3.31

教官の併任委嘱

氏　名	委　嘱　先	委員会等の名称	期　間
関本　照夫	国立民族学博物館	第二研究部教授	1992.4.1 ～93.3.31
永ノ尾信悟	国立民族学博物館	第三研究部助教授	1992.4.1 ～93.3.31

〔1993年度〕

委員委嘱

氏　名	委　嘱　先	委員会等の名称	期　間
猪口　孝	経済企画庁	国民生活審議会臨時委員	1993.4.1 ～94.2.24
猪口　孝	国際交流基金	現代日本研究コース協力委員会委員	1993.4.1 ～94.3.31
猪口　孝	㈳日本経済協議会	「男女共同参加型社会と企業」調査専門委員会委員	1993.9.1 ～94.8.31
猪口　孝	東京放送㈱	番組審議会委員	1993.10.1 ～94.3.31
加納　啓良	農用地整備公団	海外村づくり技術検討委員会委員	1993.4.1 ～94.3.31
末成　道男	日本学術会議	東洋学研究連絡委員会委員	1993.4.1 ～94.10.20
末成　道男	東京外国語大学・AA研	運営委員会委員	1993.4.1 ～95.1.31
田中　明彦	通商産業省	産業構造審議会臨時委員	1993.4.1 ～93.10.5
田中　明彦	㈶世界経済情報サービス	国際システム研究会委員	1993.9.1 ～94.3.31
田中　明彦	㈶財政経済協会	環境税の影響に関する調査研究，研究会委員	1993.10.1 ～94.3.31
田中　明彦	㈶日本国際問題研究所	日本の経済外交のありかたに関する総合的研究，研究委員	1993.10.1 ～94.3.31
戸田　禎佑	千葉県教育委員会	千葉県立美術館協議会委員	1993.4.1 ～94.6.30

戸田　禎佑	文化庁	文化財保護審議会専門委員	1993.4.1 ～94.8.31
原　洋之介	人事院	国家公務員Ⅰ種試験専門委員（農業経済）	1993.4.9 ～93.8.1
原　洋之介	農林水産省 農業総合研究所	専門委員	1993.4.1 ～94.3.31
松谷　敏雄	国立民族学博物館	総合的な地域研究に関する機関調査に係る調査委員会委員	1993.4.1 ～93.5.7

研究委嘱

氏　名	委　嘱　先	委員会等の名称	期　間
濱下　武志	東京外国語大学・AA研	東アジアの社会変容と国際環境	1993.4.1 ～94.3.31
末成　道男	東京外国語大学・AA研	漢民族と周辺少数民族の文化の接触と変容	1993.4.1 ～94.3.31
永ノ尾信悟	東京外国語大学・AA研	東南アジアにおける「正統」の波及・形成と変容	1993.4.1 ～94.3.31
羽田　　正	東京外国語大学・AA研	イスラム圏における異文化接触のメカニズム	1993.4.1 ～94.3.31
松井　　健	国立民族学博物館	世界の周辺諸民族の現在外	1993.4.1 ～94.3.31
小倉　　泰	国立民族学博物館	南アジアにおける宗教図像の研究	1993.4.1 ～94.3.31
鈴木　　董	国際日本文化研究センター	交渉行動様式の国際比較	1993.4.1 ～94.3.31
田中　明彦	北海道大学・スラブ研究センター	旧ソ連諸国の変動と国際システムへの再統合	1993.4.1 ～94.9.30

教官の併任委嘱

氏　名	委　嘱　先	委員会等の名称	期　間
丸尾　常喜	東京大学・文学部	教授（中国語中国文学演習及び思想芸術）	1993.4.1 ～94.3.31

〔1992年度〕

内地研究員

氏　名（現職）	期　　間	研究課題	担当教官
岡田　充博 （横浜国立大学教育学部助教授）	1992.9.1～93.2.28	唐代文学と元～清代戯曲	田仲教授

I　学内教育参加

〔1992年度〕

1．大学院

（氏　名）	（専門課程）	（講義題目）
（1）人文科学研究科		
田　仲　教　授	中国語中国文学	中国文学特講
丸　尾　教　授	中国語中国文学	中国文学特殊研究
岡　本　教　授	中国語中国文学	中国文学演習
松　丸　教　授	東洋史学	殷周青銅器銘文研究
濱　下　教　授	東洋史学	中国近代経済史研究
宮　嶌　教　授	東洋史学	近代朝鮮経済史研究
鈴　木　教　授	東洋史学	トルコ・イスラム史研究
羽　田　助教授	東洋史学	イラン・イスラム文化研究
松　丸　教　授	中国哲学	殷周青銅器銘文研究
蜂　屋　教　授	中国哲学	特殊研究：曹魏の研究
岡　本　教　授	中国哲学	清代の思想と文学
丘　山　助教授	中国哲学	漢訳仏典の研究
上　村　教　授	印度哲学　印度文学	サンスクリット文学講読
丘　山　助教授	印度哲学　印度文学	漢訳仏典の研究

永ノ尾	助教授	印度哲学　印度文学	印度祭祀文献研究
後藤	教授	宗教学宗教史学（イスラム学）	ムハンマド伝研究
鎌田	助教授	宗教学宗教史学（イスラム学）	イスラム思想文献講読
戸田	教授	美術史学	東洋美術史演習
小川	教授	美術史学	中国絵画史講読
〃			東洋美術史演習

（2）法学政治学研究科

猪口	教授	政治学	アジア政治外交史
鈴木	教授	政治学	イスラム伝統国際秩序観研究
田中	助教授	政治学	国際政治

（3）経済学研究科

柳澤	教授	応用経済学	アジア農村社会の変容
加納	教授	理論経済学　経済史学	経済史専攻指導

（4）総合文化研究科

後藤	教授	地域文化研究	アジア地域文化相関論特殊研究
〃			地域文化研究特別研究
鈴木	教授		現代イスラム論
羽田	助教授	地域文化研究	アジアの宗教・思想
〃			地域文化研究特別演習
関本	教授	文化人類学	文化理論Ⅰ
〃			社会人類学特殊研究Ⅰ
〃			文化人類学特別研究
〃			文化人類学特別演習
加納	教授	文化人類学	社会人類学特殊研究Ⅰ
末成	教授	文化人類学	中国民族誌

原　　教　授	国際関係論	国際経済論
岡　本　教　授	比較文学比較文化	比較文明論演習

（5）理学系研究科

友　杉　教　授	地理学	地誌研究
〃		地誌学演習

（6）農学系研究科

原　　教　授	農業経済学	国際農業論

2．学　部

（氏　　名）	（学　科）	（講　義　題　目）

（1）文学部

戸　田　教　授	美術史学	中国絵画史
田　仲　教　授	中国語中国文学	中国戯曲史
丸　尾　教　授	中国語中国文学	中国文学演習
後　藤　教　授	宗教学宗教史学（イスラム学）	イスラム史概説

（2）法学部

鈴　木　教　授	特別講義	中東の政治

（3）経済学部

柳　澤　教　授	経済学科・経営学科	低開発経済

（4）教養学部

原　　教　授	教養学科	東南アジアの経済
加　納　教　授	教養学科	東南アジア近代史
関　本　教　授	教養学科	文化人類学理論Ⅰ
鈴　木　教　授	教養学科	アジアの政治変動
末　成　教　授	教養学科	東アジアの家族

田　中　助教授	一般教養	国際体系演習
〃		国際関係論
猪　口　教　授	一般教養	政治学（文科Ⅰ類）

（5）理学部

友　杉　教　授	地理学	人類生態学

（6）農学部

原　　教　授	農業経済学	比較農業

（7）全学一般教育ゼミナール

上　村　教　授	第1・3学期	サンスクリット語初級
永ノ尾　助教授	第1・3学期	インドの儀礼の変遷
上　村　教　授	第2・4学期	サンスクリット語初級

〔1993年度〕

1．大学院

（1）人文科学研究科

（氏　名）	（専　門　課　程）	（講　義　題　目）
丸　尾　教　授	中国語中国文学	中国文学特殊研究
岡　本　教　授	中国語中国文学	中国文学演習
松　丸　教　授	東洋史学	殷周青銅器銘文研究
濱　下　教　授	東洋史学	中国近代経済史研究
宮　嶌　教　授	東洋史学	近代朝鮮経済史研究
鈴　木　教　授	東洋史学	トルコ・イスラム史研究
〃		地中海都市論
羽　田　助教授	東洋史学	イラン・イスラム文化研究
平　勢　助教授	東洋史学	先秦史の諸問題

松　丸	教　授	中国哲学	殷周青銅器銘文研究
蜂　屋	教　授	中国哲学	特殊研究：曹魏の研究
岡　本	教　授	中国哲学	中国哲学特殊研究
丘　山	助教授	中国哲学	『高僧伝』講読
上　村	教　授	印度哲学　印度文学	サンスクリット文学講読
丘　山	助教授	印度哲学　印度文学	漢訳仏典の研究
永ノ尾	助教授	印度哲学　印度文学	印度祭祀文献研究
後　藤	教　授	宗教学　宗教史学（イスラム学）	ムハンマド伝研究
鎌　田	助教授	宗教学　宗教史学（イスラム学）	イスラム思想文献講読
戸　田	教　授	美術史学	東洋美術史演習
小　川	教　授	美術史学	中国絵画史講読
〃			東洋美術史演習

（2）法学政治学研究科

猪　口	教　授	政治学	アジア政治外交史
鈴　木	教　授	政治学	中東政治

（3）経済学研究科

柳　澤	教　授	応用経済学	アジア農村社会の変容
加　納	教　授	理論経済学　経済史学	経済史演習

（4）総合文化研究科

後　藤	教　授	地域文化研究	アジア地域文化相関論
〃			地域文化研究特別研究
羽　田	助教授	地域文化研究	アジア地域文化相関論特殊研究
〃			地域文化研究特別演習
柳　澤	教　授	地域文化研究	アジア地域文化構造論特殊研究
末　成	教　授	文化人類学	中国民族誌

関本教授	文化人類学	文化理論II
〃		社会人類学特殊研究II
〃		文化人類学特別研究
〃		文化人類学特別演習
原　教授	国際関係論	国際経済論
鈴木教授	地域文化研究	現代アジア論
岡本教授	比較文学比較文化	比較文化思想演習

（5）農学系研究科

原　教授	農業経済学	国際農業論

2．学　部

（氏　名）	（学　科）	（講義題目）
（1）文学部		
丸尾教授	中国語中国文学	中国文学演習
小川教授	美術史学	中国絵画史講読
後藤教授	イスラム学	イスラム史概説
鎌田助教授	イスラム学	イスラム史概説
羽田助教授	イスラム学	イスラム史演習
（2）法学部		
鈴木教授	特別講義	中東の政治
（3）経済学部		
宮嶌教授		朝鮮社会経済史研究
（4）教養学部		
上村教授	教養学科	古典語初級
平勢助教授	教養学科	『史記』列伝講読

末　成　教　授	教養学科	ベトナム民族誌
柳　澤　教　授	教養学科	南アジア近代史
丸　尾　教　授	教養学科	芸術思想一般
加　納　教　授	教養学科	東南アジア近代史
関　本　教　授	教養学科	文化人類学演習
鈴　木　教　授	教養学科	アジアの政治変動
田　中　助教授	一般教養	国際関係論
〃		国際体系Ⅰ・Ⅱ
猪　口　教　授	一般教養	政治学（文科Ⅰ類）

（5）農学部

原　　教　授	農業経済学	比較農業

（6）全学一般教育ゼミナール

平　勢　助教授	第1・3学期	『史記』列伝講読
松　井　助教授	第2・4学期	レヴィ＝ストロースを読んでみよう

J　刊行物一覧

1．東洋文化研究所紀要

第119冊（1992年10月）

魯迅の祖父周福清攷（三）——その家系，生涯及び人物像について——	松岡　俊裕
現代中国仏教の研究	末木文美士
Dīkṣā in the *Tantrāloka** ĀNANDAVARDHANA 作	Jun TAKASHIMA

DHVANYĀLOKA 訳註（第３章－２）　上村　勝彦

第120冊（1993年２月）

裘衛諸器銘文考釋――陝西省岐山縣
　董家村出土青銅器の研究（一）――　竹内　康浩

宋代杖殺考　川村　康

西廂記または物語の謎解き　廣瀬　玲子

魯迅の祖父周福清攷（四）――その家系，
　生涯及び人物像について――　松岡　俊裕

英雄と処女神（一）――インボング民譚集――　塩田　光喜

邵雍『皇極経世声音唱和図』の音韻体系　平山　久雄

帝王騎馬牡獅子二頭狩文の成立　田辺　勝美

第121冊（1993年３月）

西周式土器成立の背景（上）　西江　清高

珠江デルタ桑園囲の構造と治水組織
　――清代乾隆年間～民国期――　片山　剛

一九九一年立法局選挙から見た香港の政治潮流　谷垣真理子

日本近世の亀趺碑――中国および朝鮮半島の
　歴代亀趺碑との比較を通して――　平勢　隆郎

友杉　孝教授　略歴・主要著作目録

田仲一成教授　略歴・主要著作目録

第122冊（1993年11月）

宋江實錄　高島　俊男

『水滸』における「対立」の構図　笠井　直美

魯迅の祖父周福清攷（五）――その家系，
　生涯及び人物像について――　松岡　俊裕

日本近世の亀趺碑――中国および朝鮮半島
　の歴代亀趺碑との比較を通して・その続――　平勢　隆郎

ĀNANDAVARDHANA 作

DHVANYĀLOKA 訳註（第4章）
DHVANYĀLOKA 原典索引　上村　勝彦

第123冊（1994年2月）

西周式土器成立の背景（下）　西江　清高
『馬王堆漢墓帛書周易』要篇の研究　池田　知久
ガンダーラ彫刻と阿弥陀仏　岩松　浅夫
戰國紀年再構成に關する試論——續——　平勢　隆郎

第124冊（1994年3月）

牧牛匜銘文考釋——陝西省岐山縣
董家村出土青銅器の研究（二）——　竹内　康浩
宋代死刑奏裁考　川村　康
嘉靖定本から万暦新本へ
——熊大木と英烈・忠義を端緒として——　大塚　秀高
乾隆禁書（二）
——著者たちのプロフィル（続）——　岡本　さえ
珠江デルタの地域社会
——新会県のばあい——　西川喜久子
ローマと中国の史書に秘められた「クシャノ・ササン朝」　田辺　勝美
Formation of the Tālamāna System
——Iconometry of South Indian Sculpture——　Yasushi OGURA

2．東洋文化

第73号（1993年3月）　特集“インド文化の諸相”

古代インドの王権論
——仏典と『実利論』を史料として——　山崎　元一
隠棲の問題　土田龍太郎
Devīmāhātmya における戦闘女神の成立　横地　優子
プラーナ文献が記述する秋の女神の大祭　永ノ尾信悟

Brahmacārin 前史　渡瀬　信之

南インドヒンドゥー彫刻のプロポーション
——いわゆる「儀軌文献」の規定と神像制作の実際——　小倉　泰

Ānandavadhana の Bhagavadgītā 注　上村　勝彦

第74号（1994年3月）　特集“中国現代文学研究”

国家と詩人——魯迅と明治のイプセン——　清水賢一郎

民族主義ふたたび
——周作人の排日と「溥儀出宮」事件——　伊藤　徳也

郭沫若と一九二〇年代中国の国家主義，
〈孤軍〉派——郭沫若「革命文学」論提唱，
広東行，北伐参加の背景とその意味——　小谷　一郎

メディア空間上海——『子夜』を読むこと——　鈴木　将久

中国左翼戯劇連盟下における活報劇と藍衫劇団　白水　紀子

張愛玲文学の誕生をめぐって
——アイデンティティ危機の場——　邵　迎建

思想家としての魯迅　錢　理群・王　乾坤　著
丸尾　常喜・任　明信　訳

3．東洋文化研究所研究報告（＊在庫なし）

＊1．仁井田　陞『中国の農村家族』1952

＊2．周藤　吉之『中国土地制度史研究』1954

＊3．泉　靖一・斎藤　廣志『アマゾン　その風土と日本人』1954

＊4．大林　太良『東南アジア大陸諸民族の親族組織』1955

＊5．結城　令聞『世親唯識の研究　上』1956

＊6．関野　雄『中国考古学研究』1956

＊7．窪　徳忠『庚申信仰』1956

＊8．江上　波夫他『館址　東北地方における集落址の研究』1958

＊9．仁井田　陞『中国法制史研究　刑法』1959

*10. 仁井田　陞『中国法制史研究　土地法・取引法』1960
*11. 米澤　嘉圃『中国絵画史研究』1961
*12. 結城　令聞『唯識学典籍志』1962
*13. 仁井田　陞『中国法制史研究　奴隷農奴法・家族村落法』1962
*14. 築島　謙三『文化心理学基礎論』1962
*15. 窪　　徳忠『庚申信仰の研究　年譜篇』1962
*16. 仁井田　陞『中国法制史研究　法と慣習・法と道徳』1964
*17. 鎌田　茂雄『中国華厳思想史の研究』1965
*18. 江上　波夫『アジア文化史研究　要説篇』1965
*19. 泉　　靖一『済州島』1966
*20. 江上　波夫『アジア文化史研究　論考篇』1967
*21. 鈴木　　敬『明代絵画史研究　浙派』1968
*22. 窪　　徳忠『庚申信仰の研究　島嶼篇』1969
*23. 中根　千枝『家族の構造　社会人類学的分析』1970
*24. 窪　　徳忠『沖縄の習俗と信仰』1971
*25. 川野　重任『農業発展の基礎条件』1972
*26. Nakamura Kojiro, *Ghazali on Prayer,* 1973
*27. 窪　　徳忠『増訂　沖縄の習俗と信仰』1974
*28. 鎌田　茂雄『宗密教学の思想史的研究』1975
*29. 松井　　透『北インド農産物価格の史的研究1861～1921年』 1977
*30. 荒　　松雄『インド史におけるイスラム聖廟　宗教権威と支配権力』1977
*31. 池田　　温『中国古代籍帳研究　概観・録文』1979
*32. 田仲　一成『中国祭祀演劇研究』1981
*33. 松丸　道雄『東京大学東洋文化研究所蔵甲骨文字　図版篇』1983
*34. 田仲　一成『中国の宗族と演劇　華南宗族社会における祭祀組織・儀礼及び演劇の相関構造』1985
*35. 鎌田　茂雄『中国の仏教儀礼』1986

*36. 松井　透『イギリス支配とインド社会　19世紀前半北インド史の一研究』1987

*37. 鎌田　茂雄『新羅仏教史序説』1988

*38. 斯波　義信『宋代江南経済史の研究』1988

*39. 田仲　一成『中国郷村祭祀研究　地方劇の環境』1989

*40. 濱下　武志『中国近代経済史研究　清末海関財政と開港場市場圏』1989

41. 上村　勝彦『インド古典演劇論における美的経験　Abhinavagupta の rasa 論』1990

42. 宮嶋　博史『朝鮮土地調査事業史の研究』1991

43. 柳澤　悠『南インド社会経済史研究　下層民の自立化と農村社会の変容』1991

44. Matsutani Toshio ed., *Tell Kashkashok The Excavations at Tell No. II*, 1991

45. 山田　三郎『アジア農業発展の比較研究』1992

*46. 蜂屋　邦夫『金代道教の研究　王重陽と馬丹陽』1992

*47. Tomosugi Takashi, *Reminiscences of Old Bangkok : Memory and the Identification of a Changing Society*, 1993

*48. 田仲　一成『中国巫系演劇研究』1993

49. 原　洋之介『東南アジア諸国の経済発展　開発主義的政策体系と社会の反応』1994

4．東洋文化研究所叢刊（＊在庫なし）

*1．鎌田　茂雄『華厳学研究資料集成』1983

2．深井　晋司編『ターク・イ・ブスターンIII　実測図集成』1983

*3．鎌田　茂雄『禅典籍内華厳資料集成』1984

4．Nakane Chie ed., *Social Science and Asia*, 1984

*5．蜂屋　邦夫編『儀禮士冠疏』1984

*6．鎌田　茂雄『道蔵内仏教思想資料集成』1986

*7．山田　三郎編『中部タイ稲作農村の経済変容』1986

*8．蜂屋　邦夫編『儀禮士昏疏』1986

*9．Seki Hiroharu, *The Asia-Pacific in the Global Transformation*, 1987

*10．蜂屋　邦夫編『中国道教の現状　道士・道脇・道観』1990

*11．池田　　温編『中国古代寫本識語集録』1990

*12．Tomosugi Takashi, *Rethinking the Substantive Economy in Southeast Asia*, 1991

*13．松丸　道雄編『甲骨文字字釋綜覧』1993

14．加納　啓良編『中部ジャワ農村の経済変容　チョマル郡の85年』1994

5．イラク・イラン遺跡調査団報告

『テル・サラサートⅠ』*1958，『同Ⅱ』*1970，『同Ⅲ』1975，『同Ⅳ』1981

『マルヴ・ダシュトⅠ』*1962，『同Ⅱ』*1962，『同Ⅲ』1973

『ファハリアンⅠ』*1963

『西アジアの人類学的研究Ⅰ』*1963，『同Ⅱ』*1968

『デーラマンⅠ』*1965，『同Ⅱ』*1966，『同Ⅲ』*1968，『同Ⅳ』1971

『タークーイ・ブスターンⅠ』*1969，『同Ⅱ』*1972，『同Ⅲ』1983，『同Ⅳ』1984

『ハリメジャンⅠ』1980，『同Ⅱ』1982

6．インド史跡調査団報告

『デリー：デリー諸王朝時代の建造物の研究』第Ⅰ巻　遺跡総目録 *1967，第Ⅱ巻　墓建築 *1969，第Ⅲ巻　水利施設 *1970

7．東アジア部門美術研究分野報告

『中国絵画総合図録』第一巻　アメリカ・カナダ篇 *1982，第二巻　東南アジア・ヨーロッパ篇 *1982，第三巻　日本篇Ⅰ　博物館 *1983，第四巻　日本篇Ⅱ　寺院・個人 *1983，第五巻　総索引 *1983

8．蔵書目録

『東洋文化研究所漢籍分類目録』*1973

『東洋文化研究所漢籍分類目録　書名人名索引』*1975

9．その他

『アジアの社会と文化』創立40周年記念論集　全三巻 *1982

『東洋文化研究所の50年』創立50周年記念誌編集小委員会　1991

『アジアの文化と社会』創立50周年記念論集　全三巻 *1992

K　執筆著書・論文等総数　受賞

〔1992・93年度〕

著書43冊，論文202本，その他97点

鹿島美術財団賞	林　秀　薇	1994年

文化勲章	江上　波夫	1991年
文化功労者	辻　直四郎（併）	1978年
	江上　波夫	1983年
	山本　達郎（併）	1986年
	川野　重任	1993年
	中根　千枝	1993年
学士院賞	仁井田　陞	1934年
	宇野　圓空	1942年
	山本　達郎（併）	1952年
	周藤　吉之	1956年
	福島　正夫	1963年
	鎌田　茂雄	1976年
	荒　松雄	1978年
	池田　温	1983年
	鈴木　敬	1985年
	田仲　一成	1993年

IX　所員の活動

汎アジア部門

原　洋之介　はら　ようのすけ

1．略　歴

1944．2生，1967　東大・農・農経卒，1969　東大大学院農学・農経・修士課程修了，1972　同博士課程退学，同年　東文研助手，1975　国際連合アジア太平洋経済社会委員会(バンコク)派遣，1976　農学博士(東大)，1977帰国，1978　東文研助手退職，同年　東大農学部非常勤講師，国際開発センターにて研究調査，1979　東文研助教授，1988　同教授。

2．研究活動の概要・研究経過

今日まで，市場メカニズムを読み解く理論経済学の展開を明示的に考慮しつつアジア諸国での現地調査を極力多く行うことをふまえて，アジア諸国の経済発展の内的メカニズムの解明を続けている。最近まで，東南アジア地域を主たる研究対象としてとりあげ，この地域内に高度経済成長を実現しえている地域とその反対に経済停滞にみまわれている地域という二極分化傾向が発生している事態に注目して，経済成長の必要条件と充分条件との解明に勢力をそそいできた。

1960年代以降のアセアンと社会主義国との対照的経験が明らかにしてくれているように，国内民間経済主体に経済活動の自由を保障するような経済政策の採用が経済成長の必要条件といえることは間違いない。

しかし，同じアセアン内でタイとフィリッピンとの間にみられる長期的成長パフォーマンスの差異は，市場メカニズムによる経済成長が持続していくためには，国内社会構造がその社会内の大半の人間に市場経済競争への参入に関して機会の平等を保障しうるようなものでなければならないという重要な事態を明らかにしてくれている。

東南アジア地域の戦後史は，経済成長には市場経済システムが必要不可欠であるが，ある国・地域がもし市場経済の効率化に適した社会構造をもっていない時にはその国・地域の経済成長は大きな壁につきあたってしまう可能性が強いという大層興味深い事実を我々に語ってくれているのである。こういう視点からの研究成果を『東南アジア諸国の経済発展』として刊行した。

最近になって，以上のような東南アジア地域の経済観察をとおして確立させてきた視点をふまえて，特に市場経済化とそれぞれの地域・国の社会構造の適合性という視点の下で，研究対象地域を東南アジア以外にもひろげて，東・南・西アジア諸国の経済の観察を開始している。近い将来に，理論経済学が集中的にその機能を分析している市場経済システムと，地域研究が焦点をあてているアジア各地域の個性ある社会構造との連結ないし適合という視点から，本格的な汎アジア比較経済論を構築したいと考えている。

3．教育活動（1992．4～1994．3）

東京大学教養学部　東南アジアの経済　1992年度，東京大学農学部　比較農業　1992・93年度，神戸大学経済学部　東南アジア経済論　1993年度，東京大学農学系大学院　農業経済学　国際農業　1992・93年度，東京大学総合文化大学院　国際関係論　国際経済論　1992・93年度

4．学内行政事務分担（1992．4～1994．3）

農学系研究委員（1992年4月～　）。

5．学外活動（1992．4～1994．3）

東洋学会（理事）*，アジア政経学会，日本農業経済学会，国際開発センター研究顧問。

6．過去の主要業績（1992．3まで）

『クリフォード・ギアツの経済学』リプロポート　1985年；『東南アジアからの知的冒険』（共著）リプロポート　1986年；『中部タイ稲作農村の経済変容』（共著）東文研叢刊　1986年。

7．過去2年間（1992．4～1994．3）の研究業績

『アジア経済論の構図：新古典派開発経済学をこえて』リプロポート　1992年；『東南アジア諸国の経済発展―開発主義的政策体系と社会の反応』東文研報告　1994年；『地域研究と経済学―経済発展の地域性の解明をめざして』科学研究費重点領域研究報告　1994年；「市場経済発展の普遍性と固有性：日本資本主義論争の知的遺産」『創文』1993年。

＊本研究所教授・助教授は「東洋学会（理事）」である。以下の教授・助教授について個々には記さないが，同様である。

猪口　　孝　いのぐち　たかし

1．略　歴

1944．1生，1966　東大・教養・教養卒，1968東大大学院社会学，国際関係論・修士課程修了，1969　上智大助手，1970　マサチューセッツ工大政治学部大学院博士課程入学，1974　同修了，哲学博士（Ph．D．）（マサチューセッツ工大），同年　上智大外国語学部助教授，1977　東文研助教授，同年　スイス出張，1978　帰国，1983　アメリカ出張，1984　帰国，1984文献センター助教授兼務（1986まで），1988　東文研教授，1993　国連大学兼任研究員。

2．研究活動の概要・研究経過

過去30年間，東アジアの国際政治と日本政治の理論と実証を中心にして研究を進めてきた。なかでも次の4個の主題が主要なものである。(1)東アジアの国際政治の分野で，『国際政治の数量分析：北京・平壌・モスクワ，1961年～1966年』巌南堂書店　1970年，『外交態様の比較研究：中国・英国・日本』巌南堂書店　1974年，『交渉・同盟・戦争：東アジアの国際政治』東京大学出版会，1990年，(2)日本の国際関係の分野で，『国際政治経済の構図』有斐閣，1982年（台湾版，『二十一世紀国際政治経済の構図』渤海堂文化公司　1988年），『国際関係の政治経済学：日本の選択と役割』東京大学出版会　1985年，『ただ乗りと一国繁栄主義をこえて』東洋経済新報社，1987年

(中国版,『超越"坐蹭車"与一国繁栄主義』中国経済出版社　1991年), *The Political Economy of Japan: The Changing International Context*, coeditor, Stanford University Press, 1988,『レヴァイアサン—日米関係特集』(編著) 木鐸社　1989年,『湾岸を読む』(共著) プラネット・ブックス　1991年, *Japan's International Relations*, Pinter Publishers and Westview Press, 1991,『現代国際政治と日本』筑摩書房, 1991年, *Japan's Foreign Policy in an Era of Global Change*, Pinter Publishers, 1993,『アジア太平洋の戦後政治』(編著)朝日新聞社　1993年,『レヴァイアサン—漂流する日本外交？特集』(編著) 木鐸社　1993年,『現代日本外交』筑摩書房, 1993年, (3)日本政治の分野で,『日本人の選挙行動』(共著) 東京大学出版会　1986年, *Electoral Behavior in the 1983 Japanese Elections*, co-author, Institute of International Relations, Sophia University, 1986,『族議員の研究』(共著) 日本経済新聞社　1987年,『レヴァイアサン—自民党特集』(編著) 木鐸社　1991年,『日本—経済大国の政治運営』(猪口孝編「シリーズ　東アジアの国家と社会」第六巻) 東京大学出版会 1993年,『レヴァイアサン—東アジア比較政治体制特集』(編著) 木鐸社 1990年,『レヴァイアサン—土地問題と日本政治特集』(編著)木鐸社　1992年,『長寿社会のトータル・ヴィジョン』(共編著) 第一法規出版, 1993年, (4)政治理論の分野で,『社会科学入門』中央公論社　1985年,『国家と社会』(猪口孝編「現代政治学叢書」第1巻) 東京大学出版会　1988年 (中国版,『国家と社会』経済日報出版社　1989年, 韓国版,『国家と社会』ナナム出版社, 台湾版『国家と社会』経済時報社, 1992年) などを出版した。上記の著書の他に無数の論文を日本語と英語で書いている。社会科学研究の引用索引として最も権威のある *Social Science Citation Index* に記録されているように, 私の研究書・研究論文の多くは, 国際学術研究書・研究論文のなかで頻繁に引用されている。単独研究刊行のほかに,「現代政治学叢書」(東京大学出版会, 1988年から刊行, 現在17巻既刊, 全20巻予定)の責任企画編集を行っている。また,「シリーズ東アジアの国家と社会」(東京大学

出版会，1992年・1993年で全6巻刊行）の責任企画編集を行った。また，政治学研究誌『レヴァイアサン』（木鐸社，1988年開始）の編集同人として日本における政治学研究の進展に尽力している。また，次のような多くの国際的な一流学術誌の編集委員や国際諮問委員も務めてきたし，務めている。*World Politics*, *International Organization*, *Journal of Japanese Studies*, *International Studies Quarterly*, *Journal of Conflict Resolution*, *Review of International Studies*, *Government and Opposition*, *Global Governance*, *International Journal*, *Asian Journal of Political Science*, *Journal of the Japanese and International Economies*, *Yearbook of International Political Economy*.

3．教育活動（1992．4～1994．3）

東京大学法学政治学研究科　アジア政治外交史　1992・93年度，東京大学法学政治学研究科　アジア政治外交史研究指導　1992・93年度，東京大学教養学部　政治学　1992・93年度。

4．学内行政事務分担（1992．4～1994．3）

情報科学委員会（1992年4月～93年3月）。

5．学外活動（1992．4～1994．3）

日本政治学（理事），日本国際政治学会（理事），日本選挙学会（理事），現代日本政治研究会（理事，編集委員），American Political Science Association, International Studies Association, International Political Science Association，経済審議会臨時委員，国民生活審議会臨時委員，学術審議会専門委員。

6．過去の主要業績（1992．3まで）

The Political Economy of Japan, 1988; *Japan's International Relations*, 1991; *Japan's Foreign Policy in an Era of Global Change*, 1993；『現代政治学叢書』（全20巻予定　既刊17巻の責任企画編集）；『シリーズ　東アジアの国家と社会』（全6巻責任企画編集）。

7．過去2年間（1992．4～1994．3）の研究業績

『日本―経済大国の政治運営』東京大学出版会　1993年；*Japan's Foreign Policy in an Era of Global Change*. Pinter Publishers, 1993；『アジア太平洋の戦後政治』（編著）朝日新聞社　1993年；『長寿社会のトータル・ヴィジョン』（共著）第一法規出版　1993年；『現代日本外交』筑摩書房　1993年；「東アジア現代政治体制論」中嶋嶺雄編『東アジア比較研究』学術振興会　1992年；"Awed, Inspired and Disillusioned: Japanese Scholarship on American Politics," in Richard Samuels and Myron Weiner eds., *The Political Culture of Foreign Area Studies: Essays in Honor of Lucuian W. Pye*, Washington, D.C.: Pergamon-Brassey's, 1992;「日本におけるアメリカ研究」『思想』814　1992年；"Japan's Role in International Affairs," *Survival* 34-2, 1992；「国際貢献の政治学 ── 岐路に立つ日本外交」『レヴァイアサン』臨時増刊号　1992年；「冷戦後世界秩序は日本対外政策」『東文研紀要』116　1992；（韓国語）「不確実性時代の日本の外交政策」『季刊　思想』1992年夏季号；「政治改革という幻影とレジームの変更」『エコノミスト』1992年8月18―25日号；「冷戦後的世界秩序与日中関係」中華日本学会・中日友好協会編『中日関係20年 ── 90年代中日関係的課題国際学術討論文集』航空工業出版社　1992年；「日中関係は世界的視野で」『外交フォーラム』50　1992年；"Japan in Search for a Normal Role," *Adelphi Papers*, 275, 1993; "Japan's Foreign Policy in East Asia," *Current History* 91-569, 1992；「多国間外交のすすめ」『THIS IS 読売』1992年12月号；「国会議員，県会議員，村会議員」『エコノミスト』1992年12月22日号；"International Relations," in *An Introductory Bibliography for Japanese Studies. Vol. VIII, Part 1: Scocial Sciences 1988-89*, compiled by the Toho Gakkai, 1992；「日本の将来の行方に関する論争」中井昌夫・三輪公忠・蠟山道雄編『独ソ・日米開戦と50年後』南窓社　1993年；「国際社会における日本の役割」『1990年代における日本の戦略的課題』日本国際問題研究所　1993年；「日本モデル礼讃への疑問」日本経済新聞社編『私の資本主義論』1993年；「宮沢＝クリントン会談に

みる日米関係の岐路」『エコノミスト』1993年5月11日号；"Factional Dynamics of the Liberal Democratic Party," *Asian Journal of Political Science* 1-1, 1993; "Le reamenagement de l'alliance avec les Etats-Unis," *Problemes politiques et sociaux* 707, 1993; "Developments on the Korean Peninsula and Japan's Korea Policy," *Korean Journal of Defense Analysis* 5-1, 1993；「日本とイタリア—腐敗の構図」『THIS IS 読売』1993年8月号；「20世紀日本型モデルから抜け出る先は」『エコノミスト』1993年8月24日；"The Emerging Japanese Debate on its Future Course," in Sophia University Institute of American and Canadian Studies ed., *Beginnings of the Soviet-German and U. S.-Japanese Wars and 50 Years After*, Tokyo: Sophia University Institute of International Relations, 1993; "Japanese Politics in Transition: A Theoretical Review," *Government and Opposition* 28-4 (Autumn 1993);「細川さん，結局官僚が強いんです」『プレジデント』1993年10月号；「東アジアとの出会い」『UP』1993年10月号；"The 5th Column: Reject Managed Trade," co-signed, *Far Eastern Economic Review*, November 4, 1993; "Book review: Masahide Shibusawa *et. al.*, *Pacific Asia in the 1990s*," *Journal of Asian Studies* 52-1 (February 1993); "Book review: Michael W. Chinworth, *Inside Japan's Defense*," *International Affairs* 69-4 1993；「漂流する日本外交？」『レヴァイアサン』13　1993年; "Comment: Shafiqul Islam, 'Foreign Aid and Burden Sharing: Is Japan Free Riding to a Corprosperity Sphere in Pacific Asia?'" in Jeffrey Frankel and Miles Kahler eds., *Regionalism and Rivalry*, Chicago: University of Chicago Press；「東大生10年目の政治意識調査」『中央公論』1993年12月号；「『ポスト日米安保』の抗争を描け」産経新聞社『沈黙の大国』特別取材班編著『日本を変える200人の直言』上巻　1994年；"The Coming Pacific Century?" *Current History* 93-579, 1994; "Dialectics of World Order: A View from Pacific Asia," in Hans-Henrik Holm and

Georg Sorensen eds., *Whose World Order? Uneven Globalization and the End of the Cold War*, Boulder: Westview Press (forthcoming in 1994)；「過少報道は反動を招く」『世界週報』1994年2月8日号；「世界秩序と戦争」『岩波講座社会科学の方法 XI ── グローバル・ネットワーク』1994年；「二つの生産パッケージ ── 『日本改造計画』と『Vision of Japan』」『よむ』1994年3月号；「新・族議員待望論」『中央公論』1994年3月号；「現代の官僚に通じる小林虎三郎的資質」『プレジデント』1994年3月号；"Chinese Studies on Contemporary Japanese Politics," *The Japan Foundation Newsletter* 21-5, 1994；"The Debate in Japan," in Harry Kreisler ed., *Contending Images of World Order*, Berkeley: Institute of International Studies, University of California, Berkeley (forthcoming in 1994); "Democracy and Development of Political Science in Japan," in David Easton *et. al.* eds., *Regime and Discipline: Democracy and Development of Political Science*, Ann Arbor: University of Michigan Press (forthcoming in 1994); 「新聞の外報面は誰のためにある？」(丸谷才一・椎名素夫とともに) 丸谷才一編『東京ジャーナリズム大批判』青土社 1994年。

田中 明彦 たなか あきひこ

1．略 歴

1954．8生，1977 東大・教養・教養卒，同年 東大大学院社会学・国際関係論・修士課程入学，同年 マサチューセッツ工大政治学部大学院博士課程入学，1981 同修了，哲学博士 (Ph. D.) (マサチューセッツ工大)，同年 東大大学院修士課程退学，同年 平和・安全保障研究所研究員，1983 東大教養学部助手，1984 同助教授，1990 東文研助教授。

2．研究活動の概要・研究経過

現在のところ，三つの大きな分野について研究活動を並行して進めている。第一は，近代世界システムの変動に関する理論的・実証的研究であり，

第二は，国際政治の数量的分析であり，第三は，東アジアの主要国間の国際政治に関する現状分析である。

近代世界システムの変動に関しては，1989年に『世界システム』を出版して以来，その理論的展開の一つとして，山本吉宣氏らと戦争と世界システムの関係についての研究会を続け，その成果を『戦争と国際システム』(東京大学出版会)として1992年に発表した。また，科学研究費重点領域研究『高度技術社会パースペクティブ』の一員として，世界システムと技術の関係についての研究も開始した。近代世界システムと，その他の世界システムとの関係については，「マクロ歴史の分析単位は何か？ ── ユニット・関係・システム」と題する論文を作成した（科学研究費総合研究（A）「近代国際体系の拡大と広域交易網をめぐる国際関係」)。

国際政治の数量的分析については，大学院時代から行ってきたコンピュータ・シミュレーションの系譜があり，この成果は，前述の『戦争と国際システム』にその一部が報告されている。また，世界貿易データ，国際紛争データ，国際投票データなどに関する体系的なデータ収集と分析は，引き続き，浦野起央氏らと継続している。その一部の成果は，『アジア研究』(第36巻第2号，1990年２月）に「世界の中のアジア・太平洋地域と日本」と題する論文で発表した。また，戦後の日本の総理大臣その他の国会演説のデータベース化と内容分析も開始した。その初歩的成果は，「総理大臣の国会演説」(文部省科学研究費重点領域研究「戦後日本形成の基礎的研究」Occasional Paper，No.3，1994年）に発表した。

東アジアの国際政治に関しては，班研究「東アジア・東南アジアをめぐる主要国間の国際政治」を中心に研究を進めてきたが，そのうち，日中関係については，1991年４月に『日中関係1945～1990』(東京大学出版会）という形で，概略をまとめた。また，東アジアの国際政治の現状および日本の対外政策について日本文・英文の論文を数本発表した。

3．教育活動（1992．４～1994．３）

東京大学法学政治学研究科大学院　現代東アジアの国際政治　1992・93年

度，東京大学教養学部教養学科　国際体系Ⅰ・Ⅱ　1992・93年度，信州大学教養部　国際関係論　1992年度，東京大学総合文化研究科国際関係論専攻　国際政治関係論　1992・93年度，国際政治行動論　1992・93年度。

4．学内行政事務分担（1992．4～1994．3）

総長補佐（1992年4月～1993年3月），高速計算機委員会（1992年4月～1994年3月）。

5．学外活動（1992．4～1994．3）

日本国際政治学会，アジア政経学会，日本国際法学会，International Studies Association，産業構造審議会臨時委員（1992年10月～1993年10月）。

6．過去の主要業績（1992．3まで）

「中国の国際紛争行動のマクロ・モデル1950～1978」『アジア研究』29-1 1982年；「『教科書問題』をめぐる中国の政策決定」岡部達味編『中国外交――政策決定の構造』日本国際問題研究所　1983年；『世界システム』東京大学出版会　1989年；『日中関係1945～1990』東京大学出版会　1991年；『戦争と国際システム』（山本吉宣と共編著）東京大学出版会　1992年。

7．過去2年間（1992．4～1994．3）の研究業績

「対日関係」中国総覧編集委員会『中国総覧1992年版』霞山会　1992年；"Socialism in East Asia: Vietnam, Mongolia, and North Korea," in Gilbert Rozman, Seizaburo Sato and Gerald Segal eds., *Dismantling Communism: Causes and Regional Variations*, Washington, D. C.: The Woodrow Wilson Center Press, 1992; (With Yasuhiro Takeda) "Japan's Economic Policy toward China and Vietnam," in Kaoru Okuizumi, Kent E. Calder, and Gerrit W. Gong eds., *The U. S.-Japan Economic Relationship in East and Southeast Asia: A Policy Framework for Asia-Pacific Economic Cooperation*, Washington, D. C.: The Center for Stategic and International Studies, 1992; "Is There a Realistic Foundation for a Liberal New World Order?" in Seizaburo

Sato and Trevor Taylor eds., *Prospects for Global Order*, London: Royal Institute of International Affairs, 1993；「マクロ歴史の分析単位は何か？ ── ユニット・関係・システム」平成4年度科学研究費補助金（総合研究A）研究成果報告書『近代国際体系の拡大と広域交易網をめぐる国際関係』1993年；"Japan's Security Policy in the 1990s," in Yoichi Funabashi ed., *Japan's International Agenda*, New York: New York University Press, 1994；「東アジアの安全保障と日本の政策」『新国際秩序の構想 ── 浦野起央博士還暦記念論文集』南窓社　1994年。

友杉　　孝　ともすぎ　たかし（1993．3停年退職）

1．略　歴

1932．12生，1959　東大・理・地学科地理学卒，同年　アジア経済研究所調査研究部入所，1973　同退所，同年　立教大文学部助教授，1974　文学博士(立大)，1975　同教授，1983　東文研教授，1990　タイ出張(1992まで)，1993　停年退職，同年　東大名誉教授，同年　宮崎公立大学教授。

2．研究活動の概要・研究経過

タイ農村社会からタイ都市社会へと研究領域を拡げながら，地域研究を行っている。この間，一時期，スリランカ一地方商業都市の研究を行う。1983年～88年である。農村から都市へと研究領域を拡げるために，タイとは異なるスリランカの都市を研究したのである。この研究成果は『スリランカ・ゴールの肖像―南アジア地方都市の社会史』として刊行された。

スリランカ都市研究は都市景観を手掛かりにして，社会経済史を縦糸，文化についての記述を横糸にして，小さな都市社会を全体として認識する試みであった。

現在，バンコクの都市研究を行っている。約100年前のバンコクを全体として記述する試みである。拡大し続けるバンコクを相対化するために，旧バンコクを研究対象とした。旧バンコク内の一つの道路を取り上げ，この道路の歴史，さらにこの道路周辺に居住した人々の思い出を聞き取り，ま

とめつつある。国立文書館所蔵の文書から，この道路に関わる出来事を探索して，文書の新しい利用の仕方をも試みている。このバンコク研究は *Reminiscences of Old Bangkok* として刊行した。

スリランカ都市研究もバンコク研究も都市誌として発表される。地誌すなわち一社会の全体的な記述は，社会を複眼的にみる地域研究の一つの大切な成果と考えるからである。断片化された情報の平板な羅列とはまったく異なり，複数の学問分野の有機的結びつき，すなわち社会を複眼的にとらえる試みとしての地誌である。

バンコク研究と平行して，タイ農村社会にも関心を持ち続けている。20年前に行った調査を基準にして，現在，大変に変化した農村社会を明らかにしたいと考えている。20年前の研究成果は *A Structural Analysis of Thai Economic History* として刊行された。市場経済が生活の隅々までゆきわたり，農村社会の変化はすさまじいほどである。市場経済を共通項にして，農村研究と都市研究は結びついている。

現在，中部タイの一農村の社会変化を記述するモノクラフ，*Changing Features of a Rice Growing Village in Central Thailand* の公刊を用意しつつある。

3．教育活動（1992．4～1993．3）

東京大学理学部地理学科　人類生態学　1992年度，東京大学理学系研究科地誌研究・地誌学演習　1992年度，専修大学文学部大学院修士課程　第三世界の社会変化　1992・1993年度。

4．学内行政事務分担（1992．4～1993．3）

理学系研究科委員（1992．4～1993．3）。

5．学外活動（1992．4～1993．3）

日本民族学会，東南アジア史学会，国立民族学博物館研究協力者，京都大学東南アジア研究センター学外共同研究者。

6．過去の主要業績（1992．3まで）

「現代都市バンコクの景観にみられる記憶の表象 ── 貨幣・仏教・王権」『東

洋文化』69　1989年；『スリランカ・ゴールの肖像――南アジア地方都市の社会史』　同文館　1990年；*Rethinking the Substantive Economy in Southeast Asia,*　東文研叢刊　1991.

7．1992年度の研究業績

Reminiscences of Old Bangkok : Memory and the Identificalion of a Changing Society,　東文研報告　1993。

松井　　健　まつい　たけし

1．略　歴

1949．6生，1972　京大・理卒，1974　京大大学院理・動物・修士課程修了，1976　京大大学院理・動物・博士課程退学，同年　京大人文科学研究所助手，1980　理学博士(京大)，1983　神戸学院大学教養部助教授，1990　同人文学部助教授，1991　同教授，1992　東文研助教授。

2．研究活動の概要・研究経過

異文化を理解し記述するための理論上の諸問題を，主として認識人類学とその具体的な方法の批判的検討から明らかにしようと試みてきた。物理的生物的自然が，どのように概念化され命名分類されるかを明らかにすることを通して，そのなかに生活する人びとの自然認識を把握しようという問題設定から，1972年以来琉球列島をはじめ，フィリピン（バタン島）やアフリカ（ザイール東縁）での調査において，認識人類学の主要な方法である民俗分類やエスノ・サイエンスを実際に援用して，その特長と問題点を指摘してきた。同時に，認識人類学が方法上の要請から語彙を中心的な研究上の手がかりとしてきたのに対して，むしろディスコースを重視することによって，その営為を自然から社会的な事象にまで拡大する手順を考案した。文化記述の方法，主題，その歴史的背景については，人類学や地理学の既存の理論枠よりも広い展望のもとに批判的検討をおこなっていくことを課題としたい。

理論的方法論的研究とならんで，西南アジア地域の乾燥地帯の記述研究

にも重点をおいてきた。1978年のアフガニスタンの遊牧民調査以来，パキスタン（バルーチスターン）とインド西部（ラージャスターン）の砂漠地帯の生活について，民族誌的研究をおこなってきた。砂漠地帯の様々な生活の場において，いろいろなエスニック・グループ，宗教，生業様式などに分化適応している人びとが，相互にどのようにかかわりながら固有の生活世界を構成しているのかを比較研究から明らかにしようと企図している。ここから，西南アジアの砂漠文化と呼ぶことができるような特質を措定して，それを記載するための基本的なパラダイムを探ることを課題としている。当面，バルーチスターンとラージャスターンにおいて野外調査を継続し，そのなかで遊牧という生活様式の特質を西南アジア的視野のなかで解明し，定着民社会をも視野にいれつつ英国植民地時代前後の生業経済構造と地域政治史のかかわりを考察していきたい。

3．教育活動（1992．4～1994．3）

京都大学文学部・大学院文学研究科　人文地理学研究　1993年度，北海道大学大学院文学研究科　言語学特殊講義　1993年度。

4．学内行政事務分担（1992．4～1994．3）

総合研究資料館運営委員会（1993年4月～　），理学系研究科委員（1993年4月～　）。

5．学外活動（1992．4～1994．3）

日本民族学会（評議員・理事・『ニュースレター文化人類学』編集委員），国立民族学博物館研究協力者・共同研究員，沖縄国際大学南島文化研究所特別研究員。

6．過去の主要業績（1992．3まで）

『パシュトゥン遊牧民の牧畜生活――北東アフガニスタンにおけるドゥラニ系パシュトゥン族調査報告8』京都大学人文科学研究所　1980年；『自然認識の人類学』どうぶつ社　1983年；『琉球のニュー・エスノグラフィー』人文書院　1989年；『セミ・ドメスティケイション――農耕と遊牧の起源再考』新潮社　1989年；『認識人類学論攷』昭和堂出版　1991年。

7．過去2年間（1992．4～1994．3）の研究業績

「詩と民族誌 ── 記述と喚起力をめぐって」『社会人類学年報』18　1992年；「インド北西辺境における性愛のテーマ」須藤健一・杉島敬志（編著）『性の民族誌』1993年；「那覇のヤマモモ売り」「沖縄のパパイア」「砂漠の野生の果実・カイルとペルー」「砂漠のめぐみ，カフール」「砂漠に生きるコビトヤシ」「母木からつくられるナツメヤシ林」松山利夫・山本紀夫編著『木の実の文化誌』朝日新聞社　1992年；「民藝の生きているところで考えたこと」『山陽民藝』172　1993年；「宮古群島のタカ猟り── ひとつの民俗文化の終焉」『琉球新報』1993年9月30日；“Book Review: Taylor, Paul Michael, *The Folk Biology of the Tobelo People, A Study in Folk Classification* (Washington, Smithsonian Institution Press, 1990),” *Anthropas* 89-1/3　1994；「書評・福井勝義『認識と文化』」『民族学研究』58-4　1994年。

末成　道男　すえなり　みちお

1．略　歴

1938．3生，1962　東大・教養・教養卒，1964　東大大学院生物・人類学・修士課程修了，1970　東大大学院社会学，文化人類学・博士課程退学，同年　学術振興会奨励研究員（1972まで），1971　社会学博士（東大），1972　聖心女子大文学部専任講師，1975　同助教授，1983　同教授（1990まで），1987　北京外国語学院，日本学研究中心客員教授，1989　ピッツバーグ大学客員教授，1990　東文研教授。

2．研究活動の概要・研究経過

東アジア社会の比較研究。主に，家族親族，村落，年齢原理，宗教活動の社会的側面を主要なテーマとしてきた。

日本では，1962年から岩手県水沢・江刺・三陸・対馬で開始した短期調査を重ねながら，主に農村・町・漁村の同族，年齢原理などのテーマで発表した。台湾原住民については，1966年パイワン族の家族親族とくに長子

への贈与慣行，1966年～1968年ブユマ族の祖先の霊屋および位牌祭祀と漢化，1968年～1970年アミ族の母系類似の非単系制と年齢階梯制，1977，1983，1991年サイシャット族の祖先祭祀についての人類学的調査を行ってきた。台湾の漢族についての本格的調査は，1976年中部福建集落の社頭で，かつて耕地の三分の一にも及んでいたリニージの共有財産を中心に祖先祭祀を調べたのに始まる。この際，年寄りの手書きの文書が人類学的調査にあっても有効であることを痛感した。1985年からは北部客家農村の調査を行っている。韓国では，1973年の両班村落調査をはじめ，東部漁村における1979年より1年間の住み込み調査で非両班社会における儒教的伝統の浸透と巫俗的慣行の問題を扱った。中国大陸では台湾客家の原郷でもある広東省梅県の調査を1987年以来数次にわたって続けてきた。

とくに，1992年より3回にわたり調査を行ってきたベトナム社会は，それぞれ中国，韓国，日本の諸特徴と部分的に共通性を有しており，東アジア社会の比較研究にきわめて興味深い素材を提示している。最近大量に見いだされている地方文書は，人類学的にも面白い詳細な内容のものを含み，現在学的アプローチと歴史学的アプローチの総合を促すものである。また，台湾原住民社会は，全島の高度経済成長の中にあって著しい変容を遂げており，その変動過程自体社会人類学の研究課題であるが，その伝統文化の記録も急務である。100年前に始まった日本の台湾統治以来の資料やその後行われてきたさまざまな研究を整理，統括し，将来の研究の展望を開くと共に現地の人々にも利用しやすい形で還元する時期にある。こうした調査をふまえ東アジア諸社会の比較研究を試みてきたが，今後も現地社会との接触を保ちその変容過程を追いたいと考えている。

3．教育活動（1992．4～1994．3）

東京大学教養学部教養学科　東アジアの家族　1992年度，ベトナム民族誌　1993年度，東京大学大学院総合文化研究科　中国民族誌　1992・93年度，聖心女子大学　民族誌（東アジア）1992年度，民族誌（ベトナム）1993年度，山口大学　ベトナム民族誌　1993年度。

4．学内行政事務分担（1992．4～1994．3）

大学院総合文化研究科委員会(1992年4月～1994年3月)，旧宇宙航空研究所跡地利用特別委員会（1992年4月～1994年3月)。

5．学外活動（1992．4～1994．3）

日本民族学会，日本民俗学会，日本学術会議東洋学研究連絡委員。

6．過去の主要業績（1992．3まで）

「東浦の村と祭――韓国漁村調査報告」『聖心女子大学論叢』59　1982年；『台湾アミ俗の社会組織と変化』1982年；『仲間』（共著）1984年；「年齢層序制」『人類科学』37　1985年；『文化人類学：特集＝漢族研究の最前線――台湾・香港』5　アカデミア出版　1988年。

7．過去2年間（1992．4～1994．3）の研究業績

『中国に関する文化人類学的研究のための文献解題』1992年；『鶴ヶ島町史』〔民族社会編〕（編著）鶴ヶ島市　1992年；　"Anthropology of One's Own Society in East Asia," in Nakane, C.& Chiao Chien eds., *Home Bound: in East Asian Society,* 1992；「功徳儀礼の二つの型―台湾の事例を中心に」『東文研紀要』116　1992年；「東アジア三社会の葬礼に見られる異質性」溝口雄三ほか編『漢字文化圏の歴史と未来』大修館　1992年；「研究東亜的自身社会的人類学」（江訊清訳）『東亜社会研究』北京大学出版社　1993；　*Perspectives on Chinese Society: Views from Japan*, (eds.) Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, 1994.

関本　照夫　せきもと　てるお

1．略　歴

1947．1生，1972　東大・教養・教養卒，1974　東大大学院社会学・文化人類学・修士課程修了，1976　同博士課程退学，同年　国立民族学博物館助手，1981　一橋大社会学部専任講師，1982　カリフォルニア大学バークレイ校客員研究員(1984まで)，1983　一橋大社会学部助教授，1986　東文研

助教授併任，1987　東文研助教授，一橋大社会学部助教授併任，1988　ロンドン大学経済政治学校客員研究員，1990　国立民族学博物館助教授併任，1991　東文研教授，同年　国立民族学博物館教授併任(1994．3まで)。

2．研究活動の概要・研究経過

主要なテーマは，文化人類学の立場からの農民社会の文化と政治の研究。国家の支配秩序と，農村の日常生活を秩序づける文化的・宗教的な規範や慣習との相互作用を明らかにすること，また一見安定した文化秩序をつくりだす背後の政治力学に関心がある。主な研究地域は，東南アジア，とりわけインドネシア・ジャワの農村社会。1975年，1978・79年，1980年，1986年に中部ジャワ，スラカルタ地方の稲作農村でフィールドワークを行う。調査は村と家族の構成，社会関係の特徴，経済活動，村の儀礼サイクル，信仰の諸相，権威や秩序に関する農民の概念と言説，草の根における国家支配や国民形成の動向におよぶ。1987・88年には，マレーシア・スランゴール州のジャワ人移民の村で，また，1991・92年には南米スリナムのジャワ人移民社会で，異なる政治・社会環境のもとでの文化の持続と変容を比較するための調査を実施。この間，1982～84年には国際文化会館新渡戸フェローとしてカリフォルニア大学バークレイ校人類学部に，1988年にはロンドン大学経済政治学校（LSE）サントリー・トヨタ経済研究センター・フェローとして同校人類学部に滞在，農民社会の文化と政治をめぐる比較研究を行う。小さなコミニュティーでのフィールドワークにより，生活の中の人々の行為とことばを微細に捉えることを主要な方法にしているが，これと関連して，第一に，過去の東南アジア（前植民地期）における王権支配の構造の研究，第二に，今日の東南アジアにおける国民国家的伝統の創造，地方的伝統と国民文化・大衆文化との相互作用についても，研究を進めている。

3．教育活動（1992．4～1994．3）

東京大学大学院総合文化研究科文化人類学　文化理論Ⅰ　1992年度，文化人類学特別研究　1992・93年度，社会人類学特殊研究Ⅰ　1992年度，文化

人類学特別演習　1992・93年度，文化理論II　1993年度，社会人類学特殊研究II　1993年度，東京大学教養学部教養学科文化人類学　文化人類学理論I　1992年度，文化人類学演習　1993年度。

4．学内行政事務分担（1992．4～1994．3）

総合研究資料館運営委員会(1992年4月～1993年3月)，留学生センター運営委員会（1992年4月～1993年3月），国際交流委員会（1992年4月～　），大学院総合文化研究科委員（1992年4月～　）。

5．学外活動（1992．4～1994．3）

日本民族学会，東南アジア史学会，Japan-Southeast Asia Forum(Co-Chair)。

6．過去の主要業績（1992．3まで）

「サウィト事件の文化論的考察」鈴木中正編『千年王国的民衆運動の研究』東京大学出版会　1982年；「東南アジア的王権の構造」伊藤・関本・船曳編『現代の社会人類学』第3巻　1987年；「マレー半島のジャワ人移民社会—サバ・ブルナム調査ノート」『東文研紀要』109　1988年；「二者関係ネットワーク論再考—東南アジアの事例」『中国—社会と文化』6　1991；「ジャワ人のヒエラルキーと自由—村人の集いの二つの形」『東文研紀要』116　1992年。

7．過去2年間（1992．4～1994．3）の研究業績

『国民文化が生まれる時』（共編著）リブロポート　1994年；“Antara Tradisi dan Realitas Sosial Masyarakat Indonesia: Untuk Penelitian Batik yang Holistik,” *Laporan Pelaksanaan Seminar Kehidupan Batik Tradisional Indonesia*, Tim Peneliti Batik Tradisional Indonesia, STSI Surakarta, 1992; “A Cultural Analysis of the Sawito Incident,” Ishii Yoneo ed., *Millenarianism in Asian History*, Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, 1993；『スリナム・ジャワ人調査ノート」前山隆編『アジア系ラテンアメリカ人の民族性と国民統合：民族集団間の協調と相克に関する研究（中間報告)』静岡大学

人文学部文化人類教室　1993年；　書評「白石隆『運動の時代―ジャワにおける大衆的急進主義　1912-26年』」『アジア経済』1992年4月号；　事典項目「宮廷と都市・総論」「東南アジア古典期の都市」「都市と祭礼・東南アジア」「都市と聖者廟・東南アジア」「東南アジアの給排水」板垣雄三・後藤明編『事典イスラームの都市性』亜紀書房　1992年；　書評「清水展『文化の中の政治―フィリピン「二月革命」の物語』」『民族学研究』57-2 1992年；「〈ころがり枕〉を抱いて寝る」『季刊民族学』61　1992年；「ジャワの男は働かない？―男と女」宮崎恒二他編『アジア・インドネシア』河出書房　1993年；「文化概念と近代世界」『本』1994年。

福島　真人　ふくしま　まさと（1993．3退職）

1．略　歴

1958．8生，1981　東大・教養・教養卒，1983　東大大学院社会学・文化人類学・修士課程修了，同年　同博士課程入学，同年　インドネシア留学，1985　帰国，1988　同博士課程退学，同年　東文研助手，1993　同助手退職，同年　国際大学専任研究員。

2．研究活動の概要・研究経過

現在人間の心的過程をコンピュータ的なある種の計算過程として研究する認知科学は，そのルートメタファーであったAIの様々な限界によって大きな転換点に直面している。それは特にフレーム問題に顕著に見られるように，認知活動を，それが背景とする環境ないしは状況と切断した形で形式化することの限界というのが明確に認識されるようになってきた点に象徴的に表れている。こうした理解は，例えば知識の領域固有性という形で，一般的な認知構造から，より文脈に深く依存した研究へと，全体のリサーチプログラムが大きくシフトするという兆候が見られ，ある意味で認知科学的な理論化と社会科学的フィールド調査が興味深い形で収斂していく傾向が見られる。

こうした傾向に一役かったのはヴィゴツキーに代表されるソヴィエト心

理学の流れであるが，それは近年，その学派の１人であるレオンチェフによって確立された，いわゆる活動理論として，多くの興味深い理論的，実践的な研究を生み出すことになった。活動理論においては，人間の心理的過程というのは，どこか見えざる「心」なるものではなく，むしろ我々の実践的な活動そのものである，と捉え，さまざまな活動の諸形式の持続と変容の中に心の活動を見ていこうとする。この意味では，認知的，社会的という弁別は意味を失い，認知的活動の歴史社会的性格が協調されることになる。さらに活動理論は，特に道具を媒介とした人間の相互交流の形式に強い関心を持つが，それは具体的な場における様々な道具や人のインターラクションの研究として，例えば病院や空港，さらに船舶といった，様々な情報が大量に行き来する場面での，人間の認知的活動を微細に研究するという興味深い研究を生んでいる。

さらにこの文脈では学習を認知的な心の過程から，社会的活動形式として再定式化するという興味深い試みも行われ，その過程で従来の学校システム中心の教育―学習観からの脱却をはかるために伝統的な徒弟制の持つ潜在的なインパクトを再評価しようとする動きも見られる。この文脈で言えば，国際大学 GLOCOM における，文化の身体的基礎というプロジェクトは，こうした伝統的な徒弟制の中に新たな教育―学習の枠組みをさぐり，明示化されない暗黙の学習過程について光をあてようとするものである。

さらにこうした学習過程の活動理論的研究は，例えば企業や病院といった組織における絶え間ない革新の過程を，一種の組織的学習のプロセスとして見直すことをも可能にする。例えば，病院において看護婦が現在陥っているような諸問題は，彼女らの熟練化の過程が不自然な形に阻害されているためと見ることができ，また優れた企業においては，様々な変化に対応する迅速な組織的な学習の過程が，変転する市場環境において，その企業の生き残りを左右することになる。この意味では，活動理論に支えられた学習理論の再定式化は，様々な近代的な制度と個人の関係を再定式化するための興味深い可能性を示唆していると言える。

3．教育活動（1992．4～1993．3）

東京大学教養学部教養学科文化人類学　文化人類学理論　1992年度。

6．過去の主要業績（1992．3まで）

「閉ざされた言語――サミン運動とその言語哲学」『東南アジア研究』24-4 1987年；「内なる王国を求めて――ジャワ農民運動（サミン運動）に於ける権力否定とその帰結」『アジア・アフリカ言語文化研究』33 1987年；「剣と聖典のはざまで―東南アジアに於ける二元的主権，王権，現代政治」『王権の位相』弘文堂　1991年；「信仰の誕生―インドネシアに於けるマイナー宗教の闘争」『東文研紀要』113　1991年；「説明の様式について―民俗モデルの解体学」『東文研紀要』116　1992年。

7．1992年度の研究業績

「もう一つの『冥想』，あるいは都市という経験の解読格子―タイのサンティ・アソーク（新仏教運動）について」田辺繁治篇『実践宗教の人類学―上座部仏教の世界』京都大学出版　1993年；「野生の知識工学―暗黙知の民族誌についての試論」『国立歴史民族博物館報告』61　1993年；「解説・認知という実践―『状況的学習』への正統的で周辺的なコメンタール」J．レイヴ・E．ウェンガー著（佐伯胖訳）『状況に埋め込まれた学習―正統的周辺参加』産業図書　1993年。

岡本　サエ　おかもと　さえ

1．略　歴

1941．3生，1964　東大・教養・教養卒，1966　東大大学院人文・比較文化・修士課程修了，同年　博士課程入学，同年　パリ大学文学人文学部博士課程に留学，1969　同修了，パリ大学博士 Docteur de l' Université de Paris，同年　東大大学院博士課程退学，同年　東大教養学部助手，1971　東文研助手，1977　同退職，同年　東大教養学部非常勤講師，同年　千葉大教養部助教授，1990　東洋学文献センター教授，東文研教授兼務，1991　東洋学文献センター主任兼務。